

97-392



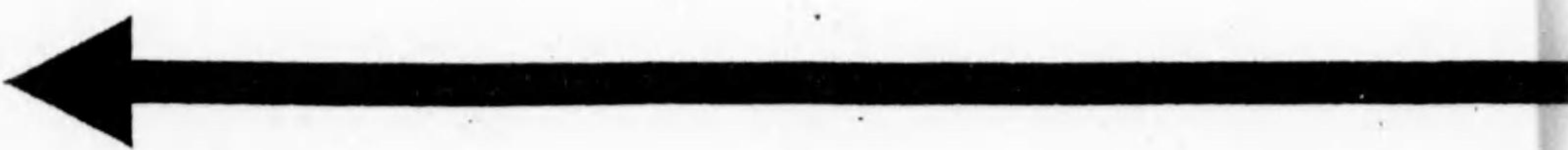
1200600303438

7

392



始



97-392

7



200500000400

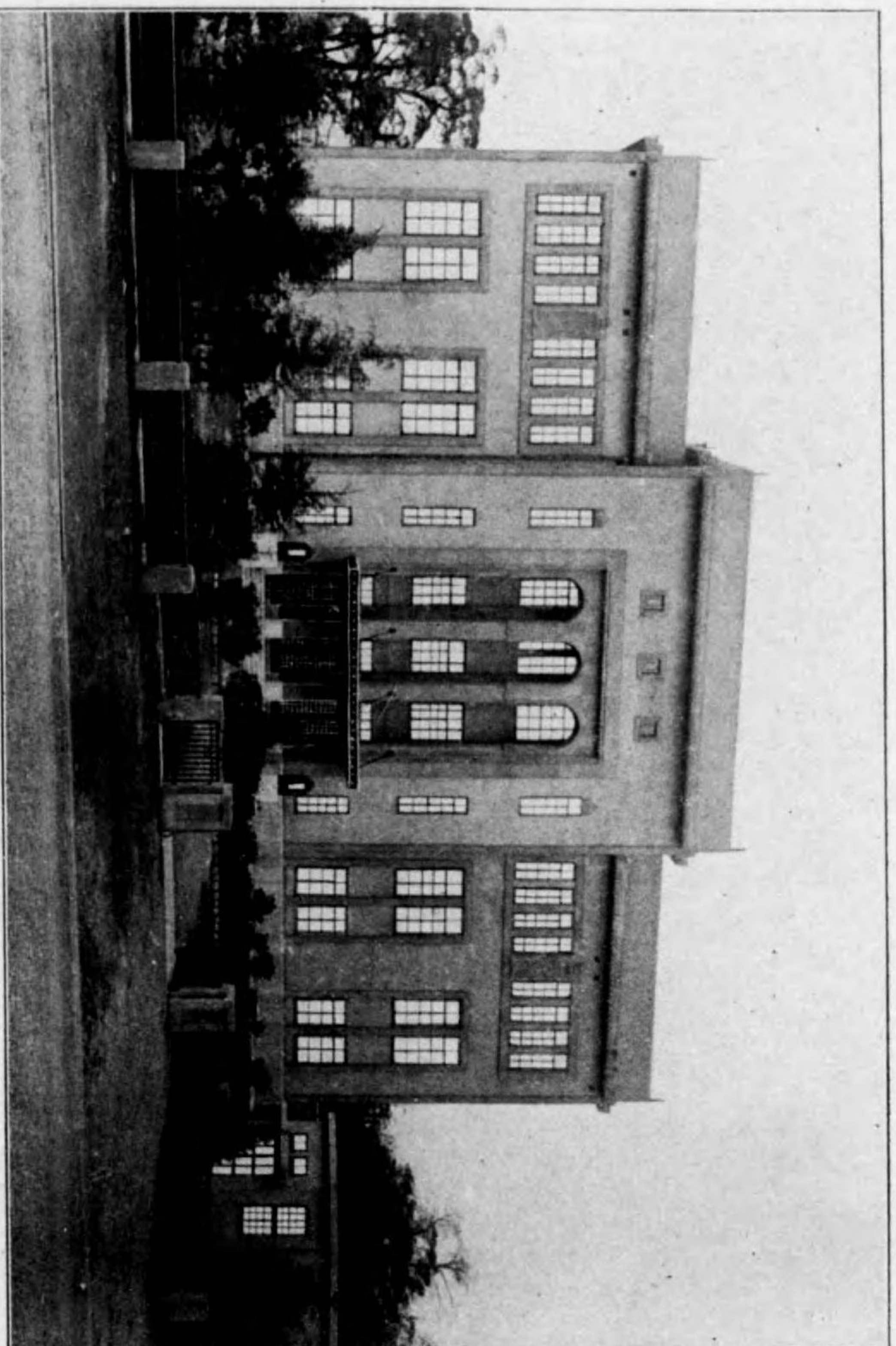
昭三 392

租三三三

帝國學士院一覽

六年

(昭和六年六月末調)



帝 國 學 士 院 會 館

帝國學士院一覽

目次

第一	本院會館寫真	卷頭
第二	沿革略	一頁
第三	帝國學士院規程	二三
第四	帝國學士院會則	二九
第五	帝國學士院長職務規程	三五
第六	帝國學士院授賞規則	三六
第七	帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律	三九
第八	貴族院帝國學士院會員議員互選規則	四〇
第九	貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令	四九
第十	學術研究獎勵金運用委員會規則	四九

目

次

一

第十	恩賜賞ニ關スル決議	五一
第十一	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議	五一
第十二	條件附寄附金ニ關スル決議	五三
第十三	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議	五三
第十四	末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五四
第十五	松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議	五五
第十六	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五六
第十七	小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議	五七
第十八	メンデンホール寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議	五八
第十九	學術研究費補助ニ關スル決議	五九
第二十	高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎勵資金受領候補者選定ニ關スル決議	六一

第二十一	學術研究費補助推薦ニ關スル決議	六二
第二十二	出版ニ關スル決議	六三
第二十三	帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議	六三
第二十四	學術研究獎勵金	六五
第二十五	出版物	七六
第二十六	學術報告	七九
第二十七	授賞事項及受賞者	九一
第二十八	補助研究事項	一〇二
第二十九	有栖川宮記念獎學資金受領候補者トシテ高松宮家へ補助推薦ノ研究事項	一一二
第三十	東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ研究事項	一一三
第三十一	藤田男爵獎學費受費者	一一六
第三十二	子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者	一一七
第三十三	役員	一一八

第三十四	會員及客員	一一八
第三十五	各部分科並ニ定員	一二五
第三十六	委員及事業擔當會員、囑託員	一二七
第三十七	事務職員	一三一
第三十八	帝國學士院前役員	一三二
第三十九	帝國學士院前會員及客員	一三三
第四十	元東京學士會院役員	一三九
第四十一	元東京學士會院會員及客員	一四一
第四十二	昭和六年五月十四日第二十一回授賞式ニ於ケル櫻井院長ノ演說	一四六
第四十三	本院會館工事概要	一五一
	本院敷地及建物略圖	一葉

帝國學士院一覽

(昭和六年七月末)

第一 沿革略

帝國學士院ハ元東京學士會院ト稱ス其ノ起源沿革左ノ如シ

明治十一年 ○十二月 文部卿西郷從道當時文部省雇顧問タリシ米人マレー氏ノ建議ニ由リ學士會院ノ必要ヲ認メ乃チ東京學士會院規則大意及選舉案ヲ西周、加藤弘之、神田孝平、津田真道、中村正直、福澤諭吉、箕作秋坪ノ七名ニ諮詢シ其ノ協賛ヲ得テ之カ創設ヲ決定ス

同 十二年 ○一月 文部大輔田中不二麿(文部卿)右西周以下ノ七名ヲ東京學士會院ノ會員ニ選舉シ其ノ報帖ヲ交付シ文部省内修文館ヲ假用シテ東京學士會院ヲ置ク ○四月 東京學士會院規則ヲ定ム其ノ要項ハ教育ノ事ヲ討議シ學術技藝ヲ評論スルヲ目的トシ會員ハ四十名ヲ限リ會院ニ於テ選舉シ文部卿ノ認可ヲ經ルノ制ナリ ○五月 東京學士會院雜誌ヲ發行ス

明治十三年 ○九月 會院ヲ湯島昌平館ニ移ス
 同 十四年 ○四月 會院ヲ修文館ニ移ス
 同 十五年 ○一月 會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス○十二月 昌平館類
 燒ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ燒失ス尋テ本院ヲ修文館
 ニ假設ス
 同 十七年 ○十月 會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス
 同 十八年 ○二月 文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス
 其ノ要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ルニ在リ會員
 ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推選ニ係ル者二十五名ヨリ成
 ル○四月 更ニ右大綱ニ基キ新ニ會則ヲ定メ同年九月ヨリ實施ス
 同 十九年 ○一月 會員ノ講演ヲ公開ス○十一月 會院ヲ東京教
 育博物館構内新築館(上野)ニ移ス
 同 二十三年 ○十月 勅令第二百六十四號東京學士會院規程發布
 ○十一月 會則ヲ定ム

同 二十八年 ○三月 勅令第十七號東京學士會院規程補則發布
 同 三十三年 ○五月 皇太子殿下御婚儀奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス
 同 三十四年 ○六月 定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七
 月ヨリ東洋學藝社ト契約シ毎月講演ノ論說及記事等ハ同社ノ雜誌
 ニ掲載スルコト、ス(後五年ニシテ之ヲ解ク)
 同 三十九年 ○六月 勅令第四百四十九號帝國學士院規程發布○七
 月 會則ヲ改正ス○役員ノ選舉ヲ行ヒ院長加藤弘之、幹事重野安釋、
 第一部々長穗積陳重、第二部々長男爵菊池大麓當選就任ス○和算史
 調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス○十二月 會則ヲ改正ス○萬國
 學士院聯合會ニ加入ス
 同 四十年 ○四月 會員重野安釋、同男爵菊池大麓、埃國キエナニ於
 ケル第三回萬國學士院聯合會へ委員トシテ參列被仰付○七月 出
 版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ議定ス○十一月
 會則ヲ追加ス○出版ニ關スル決議ヲ修正ス○十二月 帝國學士院

紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

明治四十一年 ○六月 伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトヲ議決シ

同年八月着手

同 四十二年 ○一月 燃黎室記述調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手

ス○羅馬法ニ關スル書籍ノ翻譯出版ノ件ヲ議決ス○三月 前年着

手シタル假名遣及假名字體沿革史料ノ出版成ル○四月 哲學字彙

刊行ノ件ヲ議決ス○六月 會員中島力造本院代表者トシテライブ

チヒ大學創立五百年祝賀式ニ參列ノ件ヲ議決ス○役員ノ改選ヲ行

ヒ院長菊池大麓幹事宮崎道三郎第一部々長穗積陳重第二部々長古

市公威當選七月就任ス

同 四十三年 ○四月 會員櫻井錠二ヲ伊國ローマニ於ケル第四回

萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス○五月

會員三浦謹之助へ本院會員ノ代表者トシテベルリン大學創立百年

祝賀式ニ參列ヲ委囑ス○七月 左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣

ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被

聞食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間々々金貳千圓下賜

候事

明治四十三年七月五日

宮 内 省

○十月 本院授賞規則ヲ定ム

同 四十四年 ○二月 恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス(四月追加議決)○三月

法律第三十八號帝國學士院學術獎勵金特別會計法發布○勅令第六

十九號帝國學士院學術獎勵金特別會計規則發布○五月 恩賜賞々

牌及同賞記ニ菊花御紋章附着ノ儀ヲ允許セラル○六月 會員大森

房吉へ本院代表トシテプレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委

囑ス○七月 初メテ授賞式ヲ行フ(受賞者等別項ニ記ス以下同シ)○十月 男爵三井八

郎右衛門及男爵岩崎久彌寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議

決ス(寄附金第一號第二號) ○十一月 出版ニ關スル決議ヲ修正ス ○寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス ○十二月 紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ廢シ更ニ紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議定ス

明治四十五年 ○五月 第二回授賞式舉行 ○寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス ○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓幹事宮崎道三郎第一部々長穂積陳重第二部々長古市公威當選七月就任

大正元年 ○十月 工學博士藥學博士高峯讓吉寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第三號) ○十二月 男爵住友吉左衛門寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)

大正二年 ○四月 會員坪井正五郎ヲ露國聖彼堡得ニ於ケル第五回萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス ○五月 本年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ議決ヲ省略シ) ○七月 第三回授賞式舉行 ○幹事宮崎道三郎辭任ニ付補缺選舉ヲ行ヒ櫻井錠二當選同月就任ス ○十二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究

獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)

同 三年 ○三月 萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長男爵菊池大麓第一部々長穂積陳重ヲ評議員ニ選定ス ○七月 第四回授賞式舉行 ○十一月 著者名ノ書方ニ關スル件ヲ議決ス ○十二月 勅令二百五十八號帝國學士院會員ハ勅任官ヲ以テ待遇セララルヘキ旨公布

同 四年 ○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓幹事櫻井錠二第一部々長穂積陳重第二部々長古市公威當選七月就任ス ○六月 法律第十二號帝國學士院學術獎勵金特別會計法ヲ廢止シ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ院長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨公布(施行期大正五年四月一日) ○七月 第五回授賞式舉行 ○十月 男爵藤田平太郎寄附申出ニ係ル學術研究獎勵金並ニ羅馬法學書出版費受領ノ件ヲ議決ス(第六號) ○十一月 御即位奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス ○院長菊池大麓本院會員總代幹事櫻井錠二御即位ノ大禮式ニ參列ス ○十二月

東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究資金補助ヲ要スヘキモノ、推
薦方ノ依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス(以下毎年推薦ノ事
項ハ別項ニ譲ル)

大正五年 ○四月 會則及授賞規則ヲ修正ス○六月 三井合名會社
社長男爵三井八郎右衛門寄附申出ノ出版費受領ノ件ヲ議決ス(第七
號)

○山下龜三郎寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第八
號)○
七月 第六回授賞式舉行○十月 立太子式奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

同 六年 ○二月 故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一寄附申出
ノ桂學術獎勵基金受領ノ件ヲ議決ス(第十
號)○藤田男爵獎學費給與ニ

關スル決議ヲ議定ス○七月 第七回授賞式舉行○十月 院長理學
博士男爵菊池大麓薨去ニ付補缺選舉ヲ行ヒ法學博士男爵穗積陳重
當選同月就任ス○故菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ藤澤利喜
太郎へ委嘱スルコトヲ議決ス○十一月 第一部々長穗積陳重院長
ニ就任ニ付キ同部長ノ補缺選舉ヲ行ヒ井上哲次郎當選同月就任ス
○大正六年度羅馬法學獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

(以下毎年同
事項省略ス)

同 七年 ○四月 子爵夫人末松生子寄附申出ノ羅馬法獎勵資金受

領ノ件ヲ議決ス(第十
一號)○ロンドンニ於ケル聯合諸國「サイエンティフィック
クアカデミー」代表者會議ニ本院代表トシテ會員櫻井錠二並ニ田
中館愛橘參列ノ件ヲ議決ス○五月 第八回授賞式舉行○六月 役
員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次郎
第二部々長古市公威當選七月就任ス○七月 子爵夫人末松生子寄
附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ間スル決議ヲ議定ス○十月 大正七年
度採鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス
○大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス
(以上二項以下毎年
ノ議決ヲ省略ス)○會則ヲ修正ス

同 八年 ○三月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議及學術研究費
補助ニ關スル決議ヲ修正ス○五月 皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲
天皇陛下並ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス○萬國學術研究會議第一

回總會ニ本院代表トシテ會員田中館愛橘參列ノ件ヲ議決ス
 ○第九回授賞式舉行○六月 學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ
 內閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス○パリニ於ケル萬國學士院聯
 合會ノ組織變更ニ關スル會議ニ本院代表トシテ會員高楠順次郎並
 ニ小野塚喜平次參列ノ件ヲ議決ス
 大正九年 ○一月 次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十
 ケ年間々々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降
 引續十ケ年間々々下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

○一月 組織變更後ノ第一回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表ト
 シテ會員服部宇之吉並ニ織田萬參列ノ件ヲ議定ス○二月 帝室制
 度ノ歴史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員岡野
 敬次郎(主任)三上參次、美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ服部宇
 之吉ヲ追加選定ス○五月 第十回授賞式舉行○八月 曩ニ建議セ
 ル學術研究會議設立ノ件ハ政府ノ容ルル所トナリ勅令第二百九十
 七號ヲ以テ同會議ノ官制公布セラレ○十二月 學術研究會議第一
 回總會ヲ文部省内ニ招集シ會長副會長ノ選舉ヲ行ヒ會長古市公威
 副會長櫻井錠二當選シ院長穗積陳重ハ會長古市公威ニ對シ學術研
 究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス

同 十年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラレ

○第二回萬國學士院聯合會會議ニ本院代表トシテ會員岡松參太郎
 並ニ三上參次參列ノ件ヲ議決ス○五月 第十一回授賞式舉行○六
 月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重、幹事櫻井錠二、第一部々長井上

哲次郎、第二部々長藤澤利喜太郎當選七月就任ス○九月 皇太子殿下海外ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○十月 三井家總代男爵三井八郎右衛門及三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第一號及第二號)

大正十一年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第三回萬國學士院聯合會會議へ本院代表トシテ會員井上哲次郎並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○二月 白耳義學士院創立百五十年祝賀式ハ本院代表トシテ會員井上哲次郎、中村精男、平山信並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○三月 白耳義學士院創立百五十年式ニ贈呈スヘキ祝賀文ヲ議決ス○四月 松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平山成信寄附申出ノ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○松方公爵米壽祝賀會記念獎學資金ノ使途ニ關スル決議條項ヲ議決ス○五月 第十二回授賞式舉行○七月 財團法人原田積善會理事原田二郎寄附申

出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○十月 男爵住友吉左衛門寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)○十一月 來朝中ノ獨逸理學者アインシュタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ於テ舉行シ歡迎ノ辭ヲ呈ス○十二月 第四回萬國學士院聯合會々議並ニ第五回萬國史學會々議へ本院代表トシテ會員上田萬年並ニ立作太郎參列ノ件ヲ議決ス

同 十二年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○高峯保全株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ學術研究ノ賞又ハ資ノ基金(第十號)及三共株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ上記資金補充金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)○三月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議、松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及ヒ學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○四月 松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信寄附申出ノ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金

利子ニ加フヘキ獎學金受領ノ件ヲ議決ス(第十二號)○山下龜三郎寄附
申出ノ國際關係ノ學事費受領ノ件ヲ議決ス(第九號)○五月 第十三回
授賞式舉行○松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎寄附
申出ノ同祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス(第十二號)○九月 大震
火災ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福島支部救護班執務ノ
爲提供シ尙罹災者收容ニ充ツ○十一月 大阪毎日新聞社長本山彦
一寄附申出ノ東宮御成婚記念學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス
(第十號)○十二月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス○大阪
毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術研究獎勵資金ノ使
途ニ關スル條項ヲ議決ス○第五回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代
表トシテ會員松本亦太郎並ニ織田萬參列ノ件ヲ議決ス
大正十三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル
○第五回萬國學士院聯合會々議本院代表織田萬ノ後任トシテ在白
大使安達峰一郎ニ參列委囑ノ件ヲ議決ス○一月 東宮殿下御慶事

奉祝ノ爲賀表ヲ捧呈ス○五月 第十四回授賞式舉行○六月 役員
ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次郎第
二部長佐藤三吉當選七月就任ス○十二月 米國人メンデンホール
寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)
同十四年 ○一月 第六回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員ト
シテ會員福田德三並ニ織田萬參列ノ件及在白大使安達峰一郎ニ參
列委囑ノ件ヲ議決ス○學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル○
會員推選ニ關スル臨時手續ノ件ヲ議決ス○歐文記事出版ノ新計畫
ニ關スル件ヲ議決ス○五月 各部ニ分科設置並ニ其ノ定員ノ件ヲ
議決ス○會員推選ニ關スル臨時手續法改正ノ件ヲ議決ス○小池厚
之助寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○勅令第二百號
帝國學士院規程改正ノ件公布○會則ヲ改正ス○第十五回授賞式舉
行○勅令第二百三十三號貴族院帝國學士院會員議員互選規則公布
○七月 紀事及別冊出版ニ關スル決議ヲ修正ス○八月 閣令第五

號ヲ以テ貴族院帝國學士院會員議員ノ互選投票用紙投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル件公布○勅令第二百七十三號帝國學士院規程改正ノ件公布○九月 露國學士院創立二百年記念式へ本院代表トシテ會員福田德三派遣ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○小池厚之助寄附學術獎勵金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員ノ第一回互選ヲ行ヒ第一部會員井上哲次郎、小野塚喜平次、第二部會員藤澤利喜太郎、田中館愛橋ノ四名當選、十月十日各右議員ニ勅任セラル○十月 極東熱帶醫學會第六回總會海外參列者歡迎ノ爲午餐會ヲ開ク○院長穗積陳重辭任ニ付キ同會員多年在職中ノ功勞ニ對シテ感謝狀ヲ呈スヘキコトヲ議決ス○十一月 院長辭任ニ因ル補缺選舉ヲ行ヒ會員岡野敬次郎當選同月就任ス○十二月第七回萬國學士院聯合會々議へ本院代表トシテ會員瀧精一派遣ノ件ヲ議決ス○學術研究費補助ニ關スル決議松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成

婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議ヲ修正ス○サー・チャールス・エリオットヲ客員ニ推舉ス

大正十五年
昭和元年

○ブルユセルニ於ケル第七回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委員トシテ會員在白日本大使安達峰一郎ヲ參列セシムヘキ件ヲ更ニ議決ス○二月 院長岡野敬次郎薨去ニ付キ補缺選舉ヲ行ヒ會員幹事櫻井錠二當選シ同月就任ス○岡野節寄附申出ノ學術獎勵金及追加寄附金受領ノ件ヲ議決ス(第九號)○三月 幹事ノ補缺選舉ヲ行ヒ姉崎正治當選同月就任ス○來朝中ノ佛國醫學士院幹事シャルル・アシャル博士並ニソルボヌ大學教授フシエ博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク○四月 小池厚之助追加寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス○五月 第十六回授賞式舉行○九月 新築會館落成シ之ニ移轉ス○十月 高松宮家ヨリ有栖川宮記念獎學資金受領候補者選定方ノ御依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス○小津清左衛門寄附申出ノ學術獎

勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○十一月 第三回汎太平洋學術會議海外參會者歡迎ノ爲午餐會ヲ開キ一同新會館ヲ參觀ス○第一部々長井上哲次郎會員ヲ辭任ス○十二月 第一部々長ノ補缺選舉ヲ行ヒ會員富井政章當選同月就任ス○第八回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委員トシテ會員土方寧派遣ノ件及在白會員安達峰一郎參列ノ件ヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員ノ補缺選舉ヲ行ヒ會員上田萬年當選同月二十一日同議員ニ勅任セラル

昭和二年 ○二月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○三月 ルヴン大學創立五百年記念式へ本院代表トシテ會員土方寧參列ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○ロード・リスター誕生百年祭ニ祝電ヲ送ルヘキコトヲ議決ス○五月 第十七回授賞式舉行○六月 有栖川宮記念獎學資金受領候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)○第十回萬國動物學會ニ本院代表トシテ五島清太郎ニ出席ヲ委囑ス○役員ノ改選ヲ行ヒ院長櫻井錠二幹事姊崎正治第一部々長富井

政章第二部々長佐藤三吉當選七月就任ス○勅令第百八十二號ヲ以テ規程中改正ノ件公布○學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○八月 西川虎吉ニ本院代表トシテマルスラン・ベルトロー百年祭ニ參列及祝文贈呈方ヲ委囑ス○十月 中澤つる寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第廿一號)○十二月 有栖川宮記念獎學資受領候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)○第九回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及吉田靜致參列ノ件ヲ議決ス

同 三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル
○學術研究獎勵金運用委員會設置ノ件及同委員會規則ヲ議定ス○四月 第十八回授賞式舉行○五月 コレジド・フランス教授シルバ
ン・レピ博士ヲ客員ニ推舉ス○七月 古籙篇刊行會理事長子爵渡邊千冬寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第廿二號)○十一月 御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○院長櫻井錠二會員總代幹事姊崎正治御即位ノ大禮式ニ參列ス○十二月 獨逸物理學者ゾンマーノ

エルト博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク

昭和四年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○第十回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及山田三良參列ノ件ヲ議決ス○二月 ニューヨーク市學士院創立二十五年祝賀式ニ祝電贈呈ノ件ヲ議決ス○四月 エデンバラ大學總長サー・アルフレッド・イウイングヲ客員ニ推舉ス○第十九回授賞式舉行○五月 元古籙篇刊行會理事服部宇之吉寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第廿三號)○六月 來訪中ノ米國カーネギーインステチユウシヨン世界磁力觀測隊指揮者オウルト以下六名ノ學者歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク○十二月 本院創立五十年ニ相當スル趣被聞食會員ニ御陪食仰付ラル

昭和五年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○第十一回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表員トシテ會員桑木嚴翼參列ノ件ヲ議決シ後會員立作太郎ニモ參列ヲ委囑ス(當時在巴里)○四

月 メンデンホール寄附獎學金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス ○

五月來朝中ノ佛國醫科學士院會員ジオルジ・デユマ博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク○第二十回授賞式舉行○六月役員ノ改選ヲ行ヒ院長櫻井錠二幹事姉崎正治第一部々長富井政章、第二部々長佐藤三吉當選七月就任○藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議ヲ修正ス○八月一般會計中帝國學士院費支出委任トナリ同時ニ院長ニ經理委任ノ學術研究獎勵金ノ出納事務移管トナル○十月 院長職務規程ヲ改正ス○十二月 左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院賞典ノ資トシテ尙本年以降引續キ十ケ年間年々金貳千

圓下賜候事

昭和五年十二月六日

宮 内 省

昭和六年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル○第十

二回萬國學士院聯合會々議本院代表員トシテ會員安達峰一郎ヲ出席セシムヘキコトヲ議定シ後(二月)更ニ會員松波仁一郎ヲ代表員トシテ派遣スヘキコトヲ議定ス○三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門及三菱合資會社ヨリ從來ニ引續キ學術研究獎勵金寄附申出アリ(第一號第二號)之ヲ受領スヘキコトヲ議定ス○二月 會員和田英松ヲ帝室制度ノ歴史的研究擔當委員ニ選定ス○四月 マックスウエル誕生百年祭、フアラデー電磁氣發見百年記念祝賀會及ブリテイシユ・アッソシエーション百年記念會ニ本院代表員トシテ會員長岡半太郎ヲ參列セシムヘキコトヲ議定ス○五月 勅令第八十四號ヲ以テ帝國學士院規程(第十六條)改正ノ件公布セララル○第二十一回授賞式ヲ舉行ス○六月ウイン大學名譽教授ウイン學士院會員ドクトル・ハンス・モーリシヲ客員ニ推舉ス○三井信託株式會社取締役社長米山梅吉ヨリ寄附申出ノ學術研究及發表助成資金受領ノ件ヲ議決ス

第二 帝國學士院規程

勅令第四百四十九號(明治三十九年六月十二日) (大正十四年五月改正 昭和二年六月改正 九月改正 同 六年五月改正)

帝國學士院規程

- 第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス
- 第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得
- 第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス

第一部 文學及社會的諸學科

第二部 理學及其ノ應用諸學科

第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ百人トス

第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス
會議ハ總會及部會トス

第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ
爲スモノトス

第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考案、資料等ヲ募集スルコト
ヲ得

第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ
團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得

第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢
スルコトヲ得

第十一條 帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文
部大臣ニ提出スヘシ

第十二條 帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク

院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選ス
院長、幹事及部長ノ任期ハ三年トス

第十三條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル
院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理シ院長及幹事共ニ事故アル
ルトキハ院長ノ指名シタル會員其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス

第十四條 部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル
院長、幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條 帝國學士院ニ主事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部部内
ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ院長、幹事及部長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十六條ノ二 帝國學士院ニ書記專任二人ヲ置ク判任トス
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ
手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ
得

附 則

第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢ス

第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受ケル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ケ

第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就
任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ

(參 照)

勅令第二百六十四號 (明治二十三年十月二十五日官報)

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄
ニ屬ス

第二條 東京學士會院ハ著徳碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其ノ選出ノ方法及人員左ノ如シ

一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモ
ノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス
又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條 東京學士會院會員滿六十歳以上ノ者十名以内ヲ限リ特ニ各年金三百圓賜フコトアルヘシ

第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ケ

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セララルコトヲ得

第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルト
キハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條 削除(二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除)

第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス

第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號 (明治二十八年三月八日官報)

- 候補者ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ補缺豫選ヲ行フ
候補者ニ付キ當該部會ニ於テ決選投票ヲ行ヒ外國ニ在リテ投票ヲ
爲サ、ル者ヲ除キタル部會員三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル者ヲ當
選者トシテ總會ノ認可ヲ經テ之ヲ會員ニ推選ス
前項ノ多數ヲ得タル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行ヒ尙ホ當選者
ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ
第三條 候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ
之ヲ會員ニ通知ス
第四條 客員ヲ推舉セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ賛成ヲ得
テ部會ニ發議スルコトヲ得
客員ノ選定ニ關シテハ第二條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス
第五條 院長幹事及部長ノ選舉ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當
選者トス
院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選舉シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ

選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ遞次之ヲ繰延フルコトヲ得此場合
ニ於テハ後任者ノ就任スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取
扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス
第六條 投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投
票スルコトヲ得

第七條 第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルト
キハ年長者ヲ以テ當選者トス

第八條 總會ハ院長部會ハ部長之ヲ招集ス
通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス
院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ
開クコトヲ得

第九條 總會及部會ハ在東京會員ノ三分一以上ニ相當スル出席員ア
ルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル

第十條 總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラス但シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一條 帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者、學會、學校等ニ配付スルコトアルヘシ

論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條 部ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ

第十五條 院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員

ニ報告スヘシ

部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條 部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコトヲ得

附 則

第十七條 各部ニ於ケル會員ノ數四十五人ニ充ツルマテハ第二條及第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキ者ヲ選定ス

會則第九條第一項ニ關スル決議 (大正元年十月十二日總會議決)

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議 (大正五年三月十二日總會議決)

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ヲシテ論文又ハ報告ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

(參 照)

東京學士會院會則 (明治二十三年十一月九日議決同月二十六日文部大臣認可)

帝國學士院會則 帝國學士院會則ニ關スル決議 (參照)東京學士會院會則 三三

- 第一條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル
- 第二條 會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス
- 第三條 會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト總テ會員ニ同シ
會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラス但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス
- 第四條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ヲ加ヘルモノトス
- 第五條 會員ノ推選ハ先ツ在京會員ニテ投票シ其ノ投票數多數ノ三名ヲ取ツテ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス
- 第六條 會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得
- 第七條 投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選舉ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス
- 第八條 當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲ爲ス
- 第九條 議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分ノ一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス
- 第十條 會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ
- 第十一條 毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス
- 第十二條 會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス
- 第十三條 通常毎月(八、九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第十四條 演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

第四 帝國學士院長職務規程

- 第一條 院長ハ會員若クハ職員ニ年金若クハ手當給與ヲ必要ナリト認メタルトキハ其ノ旨文部大臣ニ具申スヘシ
- 第二條 院長ハ書記ノ進退ニ關シ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第三條 院長ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ囑託員ヲ置クコトヲ得
- 第四條 左記事項ハ院長之ヲ專行スヘシ但シ第二號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
- 第一 會員及職員ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第二 囑託員ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第五 前各號ノ外輕易ナル事項

第五條 前條ニ掲ケタル事項ノ外交部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第五 帝國學士院授賞規則

明治四十三年十月十二日議決
同大正五年三月十六日修正大臣議決
同大正四年十一月十二日修正大臣議決
昭和二年六月十二日修正大臣議決
同和二年七月九日修正大臣議決

第一條 帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ賞ヲ授ク

第二條 賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク

第三條 賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クルコトヲ得

賞牌ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク

第五條 賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル

第六條 帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得

前項ノ提議ニ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第七條 部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條 審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條 部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ賛成

アルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條 擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條 擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條 論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス

第十五條 論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

第十六條 第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條 賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

第六 帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ

關スル法律 (大正四年五月法律十三號)

帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附 則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第七 貴族院帝國學士院會員議員互選規則

勅令第二百三十三號（大正十四年六月十九日官報）

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

- 第一條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選舉ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス
- 第二條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選舉ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條 選舉ニ關スル事項ハ內閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條 選舉ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第六條 帝國學士院長ハ選舉管理者ト爲リ選舉ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條 帝國學士院長ハ選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條 互選人ハ選舉會場ニ於テ選舉管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條 互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若クハ疾病傷

疾ニ因リ選舉ノ當日選舉ノ會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選舉管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ届出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ前日迄ニ届出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ選舉管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル様書留郵便ヲ以テ選舉管理者ニ之ヲ送付スヘシ投票用紙及投票用封筒ニハ選舉人ノ氏名ヲ明記スルコトヲ得ス

第十二條 選舉管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選舉會場ニ於テ投票ノ時間内ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日選舉會場及投票時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉管理者之ヲ決定ス

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

- 二 互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 - 三 一投票中其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 - 四 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 五 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
 - 六 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
 - 七 貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 前項第七號ノ規程ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限り之ヲ適用ス
- 第一項第二號第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無効トス
- 第十七條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ

選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選舉人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ選舉會場ニ於テ選舉管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條 第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人ノ其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條 貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選舉ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選舉管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ

定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選舉管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉管理者ニ届出ツヘシ
當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十一條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 選舉管理者ハ選舉錄ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ内閣總理大臣ニ送付スヘシ
當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内閣總理大臣ハ選舉錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條 投票ハ有效無效ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒選舉錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十五條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條 前二條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
 第二十八條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ニ於テ出訴ノ期限トス
 前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

附 則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參 照)

明治二十二年二月十日 勅令第十一號貴族院令抄錄

第五條ノ二 滿三十歳以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第八 貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票

用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令

閣令第五號 (大正十四年八月二十二日官報)

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ハ帝國學士院長之ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九 帝國學士院學術研究獎勵金運用

委員會規則 (昭和三年一月十二日總會議決)

第一條 本院ニ學術研究獎勵金運用委員會ヲ置ク
 運用委員會ハ院長ノ監督ニ屬シ學術研究獎勵金ノ運用ニ關スル事項ヲ審議ス
 第二條 運用委員會ハ委員長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令
 帝國學士院學術研究獎勵金運用委員會規則

委員長ハ本院幹事ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ本院會員中ヨリ院長之ヲ囑託ス
院長必要アリト認ムルトキハ文部省會計課長又ハ他ノ文部省高等
官ニ委員ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 運用委員會ハ委員長隨時之ヲ招集ス

第四條 院長ハ學術研究獎勵金ノ運用方法ヲ運用委員會ニ諮問スヘ
シ

學術研究獎勵金ノ運用ハ左ノ方法ニ據ル

- 一 國債ノ應募又ハ買入
 - 二 運用委員會ノ適當ト認ムル地方債、社債又ハ産業債券ノ應募又ハ買入
 - 三 大藏省預金部ニ預入シ又ハ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行若ハ信託會社ニ定期預金若ハ金錢信託ト爲
ス
- 學術研究獎勵金ハ一時ノ必要アル場合ニ限り之ヲ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行ニ特別當座預金ト爲
ス

第五條 運用委員會ハ毎年度學術研究獎勵金運用報告書ヲ院長ニ提

出シ院長ハ之ヲ總會ニ報告スヘシ

第十 恩賜賞ニ關スル決議

(明治四十四年四月十二日總會決議)

- 一 皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト
- 二 恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等
分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラサルモノアルトキハ
之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト
- 三 恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコト

第十一 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

(明治四十四年十一月十二日總會決議 同十二年三月十二日總會修正議決
同四十五年五月十二日總會修正議決 同十二年十二月十二日總會修正議決
大正八年四月十二日總會修正議決)

- 一 男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ

恩賜賞ニ關スル決議 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テスル賞ハ第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ分チ二個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス
大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル賞ハ之ヲ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス
受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與スルコトヲ得
賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク
二 寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ某記念賞ト稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク

三 二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第十二 條件附寄附金ニ關スル決議 (大正五年一月十二日總會決議)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スヘシ

第十三 藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議

(大正六年二月十二日總會決議
昭和五年六月總會修正決議)

- 一 男爵藤田平太郎寄附ノ獎勵費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ
- 二 獎學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス

- 三 獎學費ヲ受クヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム
獎學費ハ一人一箇年金三百圓以內トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續ス
ルコトヲ得
- 四 獎學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第十四 末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ

使途ニ關スル決議

(大正七年七月十二日第一部會議決
大正十年十一月十二日第一部會議決)

- 一 子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎勵資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以
テ羅馬法律書籍ヲ購入シ獎學品トシテ各官公私立大學中羅馬法ヲ
教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノ
トス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ
- 尙ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得
- 利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使

用スヘキモノトス

- 二 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部
部長ノ詮考ニ依ル但シ詮考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ
獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費ト
シテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム
- 三 獎學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之
ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十五 松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議

(大正十一年四月十二日總會會議決
大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 松方公爵米壽祝賀會寄附ノ獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ
永ク保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ
- 二 獎學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費、褒

賞費、講義費、學生費、出版費等ニ充テ、其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル事業費ニ之ヲ使用ス

- 三 獎學費使途ノ事項ニハ「松方記念」ノ稱ヲ冠ス
- 四 獎學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 五 獎學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十六

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十二年十二月總會議決)

- 一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル學術研究資金ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ

表明スルコト

- 二 研究資金ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ決定ス
- 三 研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞兩社ニ報告ス

第十七

小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十四年九月十九日臨時總會議決)

- 一 小池厚之助寄附獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ其ノ總額ヲ基金トシテ永久ニ保存利殖シ其ノ利子ヲ研究費補助ニ充ツ
- 二 基金ヨリ生スル利子ノ中毎年度金參千圓ヲ控除シ特別補助資金トシテ之ヲ積立利殖シ殘餘ノ利子ノ一半ハ醫學ノ研究費補助ニ充テ他ノ一半ハ一般研究費補助ニ充ツ
- 三 特別補助資金及其ノ利殖金ハ特別重要事項ノ研究ニシテ特ニ多

- 額ノ補助金ヲ要スルモノニ對シ十分ナル補助ヲ爲サムトスルトキニ限り之ヲ使用ス
- 四 研究費補助ヲ受クヘキ者ノ選定ハ本院總會ノ學術研究費補助ニ關スル決議ニ依リ之ヲ爲ス
- 五 研究費補助ヲ受ケタル者ノ氏名ハ其ノ研究事項ト共ニ毎年之ヲ小池家ニ報告ス

第十八 メンデンホール寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議

(昭和五年四月總會議決)

- 一 米國人故トーマス・メンデンホールノ遺言ニ依リ本邦理學及教育ノ明治初年ニ於ケル發達ト故人トノ關係ヲ記念センカ爲ニ寄附セル獎學資金ノ元金ハ永久ニ保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ

- 二 獎學費ハ大正十四年以降五箇年毎ニ其ノ期間ニ於テ物理學又ハ天文學上顯著ナル貢獻ヲナシタル日本人ヲ褒賞スルカ爲ニ使用ス賞ハ金牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク
- 三 前記期間ニ於テ賞ノ適當ナル物ナキトキニ限り利殖金ハ之ヲ物理學又ハ天文學上ノ學術研究費補助、講演、出版等ノ費用ニ充ツルコトヲ得
- 此ノ場合ニ於ケル獎學費ノ使途ハ第二部々會ノ決議ニ依ル、部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 四 獎學費使途ノ事項ニハ「メンデンホール記念」ノ稱ヲ冠ス

第十九 學術研究費補助ニ關スル決議

明治四十年七月十二日	總會議決
大正八年三月十二日	總會修正議決
大正十二年一月十二日	總會修正議決
大正十五年六月十二日	總會修正議決
昭和二年六月十二日	總會修正議決

- 一 會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ十二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ
- 會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル
- 前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年十二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 決議一ノ申出及推薦ハ研究事項ノ屬スル部ニ於テ之ヲ審査スル爲毎年一月ノ部會ニ於テ部長共ノ部ニ屬スル審査委員若干名ヲ指名ス(一月部會ヲ開カサルモ部長ハ審査委員ヲ指名ス)
- 部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル審査委員會ノ決議ハ一月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 三 學術研究費補助案ハ部長ノ報告ニ基キ役員會議ニ於テ之ヲ定メ二月ノ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テ

- ハ院長ハ決議一及二ノ手續ニ依ラス部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 四 學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究終了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ
- 研究數年ニ涉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ
- 五 補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第二十 高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎勵資金受領候補者選定ニ關スル決議

(昭和三年一月十二日總會議決)

本院ヨリ高松宮家ニ推薦スヘキ有栖川宮記念學術研究獎勵資金受領

候補者ノ選定ニ關シテハ授賞ノ場合ニハ本院授賞規則ヲ學術研究費補助ノ場合ニハ本院學術研究費補助ニ關スル決議ヲ準用ス
但シ授賞事項又ハ研究費補助事項ノ提出時期ハ左ノ通りトス
一 授賞事項ノ提出期ハ毎年二月又ハ時宜ニ依リ三月トス
二 學術研究費補助事項ノ提出期ハ本院會員ヨリスルモノハ毎年四月末日及十月末日迄ノ二回トシ官公私立大學總長又ハ學長ヨリスルモノハ毎年十月末日迄トス

第二十一 學術研究費補助推薦ニ關スル決議

(大正五年一月二十五日總會議決)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルトキハ總會又ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ爲サシメ其ノ結果ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第二十二 出版ニ關スル決議

(明治四十年七月十二日總會議決
同四十四年十一月十二日總會修正議決
明治四十四年十一月十二日總會修正議決)

- 一 毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ
- 二 帝國學士院規程第七條第八條及帝國學士院會則第十一條第二項第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ刊行スルコトヲ得
- 三 圖書又ハ論文ヲ編纂校訂翻譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版スルコトヲ得
- 四 第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以外ニ掲載セントスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三 帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議

(明治四十年十二月十二日總會議決
同四十四年十二月十二日總會修正議決
大正十四年七月十二日總會修正議決)

- 一 帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ登載ス
- 二 長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ臨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ登載ス
- 三 會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ
- 四 既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス但シ其ノ概要ヲ抄録スルハ此限ニアラス
- 五 出版委員若干名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス
出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得
- 六 出版委員ハ部ニ於テ之ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス
部選出委員ノ數ハ各部之ヲ定メ其ノ任期ヲ三箇年トス

第二十四 學術研究獎勵金

一 御下賜金

皇室御下賜金ノ一

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ昭和五年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典費ニ充ツ

皇室御下賜金ノ二

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ大正九年一月以降年々金壹萬圓ヲ下賜セラレ更ニ昭和六年一月金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學術研究ノ資ニ充ツ

二 寄附金

(一) 男爵三井八郎右衛門寄附金

男爵三井八郎右衛門ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓

宛合計金壹萬圓、大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ三井合名會社々長ヨリ昭和六年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツ

(二) 三菱合資會社寄附金

三菱合資會社々長男爵岩崎久彌ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、同會社々長男爵岩崎小彌太ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ三菱合資會社ヨリ昭和六年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典費ニ充ツ

(三) 工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(四) 男爵住友吉左衛門寄附金

男爵住友吉左衛門ヨリ大正元年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ更ニ大正十一年以降十箇年間毎年金壹千圓ツツ合計金壹萬圓、更ニ昭和七年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(五) 男爵古河虎之助寄附金

男爵古河虎之助ヨリ大正二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(六) 男爵藤田平太郎寄附金

大正四年男爵藤田平太郎ヨリ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニヨリ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使

用シ金壹萬圓ヲ羅馬法學獎學資金トシ金壹萬圓ヲ採鑛冶金學及關係學科獎學資金トシ各獎學資金ヨリ生スル利殖金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院又ハ分科大學在學中ノ學生ノ獎學費ニ充ツ

(七) 三井合名會社寄附金

大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ出版費トシテ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ

金壹千圓 大日本數學史ノ增補出版費

金貳千圓 伊能忠敬測地事蹟調查事項出版費

(八) 山下龜三郎寄附金ノ一

山下龜三郎ヨリ大正五年以降十箇年間每年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ船舶航海其他之ニ關スル學術研究ノ資ニ充ツ

但シ右金額ノ納付方法ハ使途ノ狀況ニ於テ隨時之ヲ變更スルコトヲ得

(九) 山下龜三郎寄附金ノ二

山下龜三郎ヨリ大正十二年以降十箇年間每年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學事費ニ之ヲ使用ス

(一〇) 故桂公爵記念事業會寄附金

大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究獎勵ノ爲金貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術獎勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又ハ一部ヲ

一 學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラル、者ニ賞トシテ與フルカ又ハ

二 學術研究費補助トシテ之ヲ使用シ

三 孰レモ桂學術獎勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場合ニ依リ(一)若クハ(二)ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ任意タルヘキコト

(一一) 子爵夫人末松生子子寄附金

大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

資金ノ利殖金ヲ以テ毎年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方法ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ

依り相當ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尙ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

(一二) 松方公爵米壽祝賀會寄附金

大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金トシテ金拾八萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ利殖スルコト
- 二 元金ハ永ク之ヲ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スルコト
- 三 利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト
- 四 前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ相當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ妨ケナキコト
- 五 利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

同 追加寄附金ノ一

大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用ス

同 追加寄附金ノ二

大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ中ヘ加ヘ使用ス

(一三) 財團法人原田積善會寄附金

財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ大正十二年以降壹百萬圓年間毎年金壹萬圓(四月及九月ノ兩月ニ分納)ツ、合計金壹百萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 金壹萬圓ノ内金二千圓ハ之ヲ原田二郎獎學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ケナキコト
- 二 金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年獎學ノ爲使用スルコトトシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト
- 三 本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會ヘ報告スルコト

(一四) 高峰保全株式會社寄附金

高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ賞又ハ研究資ノ基金トシテ大正十二年以降五箇年間毎年金五千圓(一月及七月ノ二期ニ分納)ツ合計金貳萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究

ノ賞又ハ資トシテ使用ス

(一五) 三共株式會社寄附金

三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記高峰保全株式會社寄附ニ係ル基金ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其ノ不足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓ヲ寄附セルモノナリ

(一六) 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術獎勵資金トシテ大正十三年以降十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト
- 二 賞ハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ金壹千圓宛人ニ之ヲ授與セラレタキコト 但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコトトシ其ノ作製ニ要スル費用ハ別ニ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス

三 受賞者ナキトキハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遲時翌年ニ繰越シテ使用セラレ、モ妨ケナキコト

四 研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠セラレタキコト

(一七) メンデンホール寄附金

米國人元東京大學教師故トーマス・メンデンホールノ遺言ニ因リ同人息チャールス・メンデンホールヨリ大正十四年米貨二千五百弗ヲ寄附セルモノニシテ物理學又ハ天文學ニ關スル獎學費ニ充ツ

(一八) 小池厚之助寄附金

故小池國三ノ遺志ニ依リ同人息小池厚之助ヨリ大正十四年五月金參拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附金總額ハ之ヲ基金トシテ永久ニ保存シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト
- 二 右基金ヨリ生スル利子ハ貴院ノ選定ニ依ル學術研究ノ補助資金ニ充ツルコト
- 三 右基金ヨリ生スル利子ノ中ヨリ毎年金參千圓ヲ控除シ其ノ殘額ノ一半ハ醫學ノ研究補助費ニ充テ他ノ半額ハ一般研究ノ補助費ニ充ツヘキコト
- 四 上記控除セル金參千圓ハ特別補助資金トシテ毎年之ヲ積立テ利殖シ特ニ多額ノ資金ヲ投スルニアラ

サレハ研究ヲナシ得サルカ如キ特別重要ナル事項ノ出現ヲ俟テ之ニ十分ナル補助ヲ與フル事

同 追加寄附金

小池厚之助ヨリ大正十五年三月金壹萬四千七百貳拾圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(一九) 男爵岡野節寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年二月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ右基金ハ之ヲ永久ニ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ學術研究ノ補助費ニ充ツ

同 追加寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年三月金參拾貳圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(二〇) 小津清左衛門寄附金

小津清左衛門ヨリ學術獎勵金トシテ大正十五年九月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ「南朝の柱石北畠親房及びその

子孫の事蹟」ノ研究費ニ充ツ

(二一) 中澤つる寄附金

故中澤房則ノ遺志ニ依リ中澤つるヨリ學術獎勵金トシテ昭和二年十月有價證券額面金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ一般學術研究費ノ補助ニ充ツ

(二二) 古籙篇刊行會記念獎學資金

古籙篇刊行會理事長、子爵渡邊千冬ヨリ昭和三年七月金貳萬九千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附セントスル所ノ金員ハ古籙篇刊行會記念獎學資金ト稱スルコト
- 二 古籙篇刊行會記念獎學資金ハ、金參萬圓ニ達スルヲ俟テ、其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツルコト、隨テ願書所載ノ金員ハ、金參萬圓ニ達スルマテノ間、貴院ニ於テ据置利殖ノ途ヲ講セラレタキコト
- 三 前記獎學費ハ、漢學ニ關スル研究、若クハ著作出版ノ補助ニ使用セラレタキコト

同 追加寄附金

元古籙篇刊行會理事服部宇之吉ヨリ昭和四年五月金七百貳拾五圓

ヲ寄附セルモノニシテ前項寄附金ニ加ヘ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ

(二三) 三井信託株式會社寄附金

三井信託株式會社ニ於テ某篤志家ノ供託ヲ受ケ同社取締役社長米
山梅吉名儀ヲ以テ金貳千五百圓ヲ寄附セルモノニシテ學術ノ研究
及發表ノ助成費ニ充ツ

第二十五 出版物

- 假名遣沿革史料 明治四十二年三月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第一號 明治四十五年三月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第二號 大正二年三月發行
- 帝國學士院第一部論文集(邦文) 第一號 大正二年六月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第三卷 大正二年十一月發行

○帝國學士院第二部メモアル(英文)

第一卷第一號 大正二年十一月發行

長岡半太郎及高嶺俊夫論文

階段格子及「ルムメン」板ヲ用ヒテ調査シタル水銀線ノ構造

○ユ帝欽定羅馬法學提要(末松謙澄翻譯)

大正二年十二月發行

○帝國學士院紀事(英文)

第一卷第四號 大正三年十二月發行

竹内端三論文

代數的「キヨルベル」ニ於ケル「コンケルレント」數ノ「クラス」ニ就キ

○「ウルピア」ニス「羅馬法範」(末松謙澄翻譯)

大正四年三月發行

○「ガ」イウス「羅馬法解說」(末松謙澄翻譯)

大正四年三月發行

○伊能忠敬(長岡半太郎監修大谷亮吉編著)

大正六年三月發行

○和算ノ方陣問題(菊池大麓監修三上義夫編著)

大正六年三月發行

○諸外國學士院ノ組織及授賞制(藤澤利喜太郎編)

明治四十三年八月印刷

○增修日本數學史(遠藤利貞遺著)

大正七年九月發行

○帝國學士院紀事(英文)

第一卷第五號 大正七年十月發行

藤澤利喜太郎論文

代數的平均ニ就テ

大谷亮吉編著

伊能忠敬ノ傳記並ニ其事業概説

○帝國學士院第一部論文集(邦文)

穂積陳重著 譯ニ關スル疑

第二號

大正八年二月發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第二卷第一號
至同第十號

大正五、昭和二年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第三卷第一號
至同第十號

昭和二、三年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第四卷第一號
至同第十號

昭和三、四年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第五卷第一號
至同第十號

昭和四、五年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第六卷第一號
至同第十號

昭和五、六年發行

○帝國學士院紀事第六卷別冊(歐文)

昭和五年發行

姉崎正治著 A Concordance to the History of Kirishitan Missions.

(Catholic Missions in Japan in the Sixteenth and Seventeenth Centuries.)

○帝國學士院紀事(歐文)

自第七卷第一號
至同第十號

昭和六年發行

第二十六 學術報告

(自明治四十年四月略之
至昭和五年三月略之)

提出年月

題

目

提出者又ハ講演者

昭和五年四月

一 纖維素凝固態の構造(一)凝固の機構 同(二)ゲイスコ
1スの凝固態收縮

(俵會員紹介)

厚木 祖父 江勝 寛基

一 隨意筋の自律神經支配と其化學的温調節との關係

吳英建 荒木 前田 武雄

一 破傷風毒注射による筋肥大

嘉元 原田 田嘉元

一 日本樟腦の心臓に及ぼす作用に就て (以上三件 三浦會員紹介)

田村 憲造 外田 村二

一 西曆千九百二十九年に於ける北半球共同緯度觀測事業
の假結果

會員 木村 榮

一 北緯共同緯度觀測所に於て使用せる大天頂儀附屬マイ
クロメートルの溫度係數に就て

一 淋巴液の「トリプチナーゼ」に關する研究第一及第
二報告

會員 寺島 正一

一 實驗的日射病に於ける血液の化學的變化に就て (以上二件 稻田會員紹介)

會員 關口 六郎

一 日本産モルグラ屬の新種に就て

會員 丘 淺次郎

- 一 對流に因る柱狀渦列に就て (平山(清)會員紹介)
- 一 球狀星團の力學に就て (吉江會員紹介)
- 一 微分方程式の解の安定の條件に就て (長岡會員紹介)
- 一 諸星群によつて生ずるものと考へらるゝ空電の觀測 (鈴木會員紹介)
- 一 ネオン同位元素20及22のゼーマン効果 (鈴木會員紹介)
- 一 爆發的放電による鐵のスペクトル線の波長及び強さの變化 (鈴木會員紹介)
- 一 熔融水晶製振子 (鈴木會員紹介)
- 一 白米中のリゾレチンに就て (鈴木會員紹介)
- 一 最近の伊東地震群について (鈴木會員紹介)
- 一 アミノ酸の物理化學的研究第三報 (鈴木會員紹介)
- 一 たまみちんに於ける麻醉感度の年齢による指數函數的減少 (石川會員紹介)

- 一 高温高壓下に於ける還元銅の接觸作用に就て (荒木會員紹介)
- 一 相模灣に産する長き柄のある群生海鞘類の一新種に就て (真島會員紹介)
- 一 アルコホル類の試薬として4沃化ビフェニル、4、イソチアナト第二報 (真島會員紹介)
- 一 有限群の指標の結合に關する「プロベニクス」の論文に關する研究 (高木會員紹介)

- 昭和五年六月
- 一 南アメリカ産蛭類の一新屬に就て (寺田會員紹介)
 - 一 有機化合物間に於ける水素の接觸的移動 (寺田會員紹介)
 - 一 海螢の脂肪に就て (寺田會員紹介)
 - 一 沿面燃焼の實驗 (寺田會員紹介)
 - 一 長きスパークの構造 (寺田會員紹介)
 - 一 爆發放電に因る鐵の級數スペクトル諸線に於ける變位の性質 (寺田會員紹介)
 - 一 整係數の行列論に於ける對等及び包含定理の群論的證明 (寺田會員紹介)

- 一 論理代數學に關して (以上二件 高木會員紹介)
- 一 心學教育の發達と諸藩學校教育との關係(講演) (三上會員紹介)

昭和五年七月

- 一 家蠶の雄に於ける異狀交接器の遺傳と其環境 (石川會員紹介)
- 一 聯立一次不等式について
- 一 琉球産桑の害蟲葉蟲の二新種 (佐々木會員紹介)

- 一 圓錐體外徑路の末梢の組織的研究 (三浦會員紹介)

- 一 ヘルボアザラ フォルモサナの解剖に就て

- 一 ウエルマーの豫想について

- 一 素數次の相對的循環數體の類數に就て(以上二件 高木會員紹介)

- 一 セメントタイトの構造に就て (俵會員紹介)

- 一 圓錐型喇叭による音の場に關する實驗

- 一 ヒエゾエレキに依る加速度計と其應用(以上二件 寺田會員紹介)

- 一 木造家屋の地震による被害に關する力學的模型に就て

黒田成勝

石川謙

梅谷與七郎

藤原松三郎

湯淺啓溫

吳沖中

柴川口

丘豪雄

森島淺次郎

守屋美賀雄

志村繁隆

佐藤孝二

加藤愛太郎

- 一 肥前茂木植物化石の地質學上の意義

- 一 α アミノ酸よりイミダゾール誘導體の合成(1)イミダゾール、プロピオン酸の新合成法

- 一 不飽和脂肪酸選擇的水素添加と其構造

- 一 大豆のケファリン (以上三件 鈴木會員紹介)

- 一 ニツケル線の爆破放電による變化
- 一 電離したるチタン線の爆破放電による變化

- 一 音の方向知覺に就て (寺田會員紹介)

- 一 ビオスに關する研究(第六報第七報)

- 一 ビオスに關する研究(第八報)

- 一 大豆レシチン第一報A系及びB系の分離

- 一 ヴイタミンと腫瘍の増殖(第四報)ラツテ腫瘍とヴィタミンBの消費量に就て

遠矢藤部誠長

赤堀四郎

井上吉之助

西本卯三

長岡半五郎

石原嘉巳

栗原巳四郎

鈴木憲文

鈴木憲文

鈴木保次

鈴木保次

中川英一郎

昭和五年十月

- 一 グルコン酸醗酵に就て (以上五件 鈴木會員紹介)
 - 一 相模灣より獲たる著しきキンチャ類に就て 會員 丘 朝高 井橋 勇 浅次郎 宣造
 - 一 穀類に寄生するヘルミントスホリウムの新しき子囊世代の數種に就て (宮部會員紹介)
 - 一 脊髄の副交感神經と腸胃の運動第一 同上第二
 - 一 圓錐體外徑路の終末と副交感神經性の筋肉内副末端板 吳 外 二 吳 建 名
 - 一 人間及び動物の癌腫組織内に於ける一種の微細顆粒に就て (以上四件 三浦會員紹介)
 - 一 フェルマーの豫想に就て (第五)
 - 一 論理代數に就て (第二) (以上二件 高木會員紹介)
 - 一 彈性棒の強制振動に就て (末廣會員紹介)
 - 一 臺灣島の地史 會員 半 矢 澤 正 長 四 郎 克 昭
- 昭五年十一月
- 一 マーハバストと其の漢譯佛本行集經 (姉崎會員紹介)
 - 一 金屬マグネシウムと鹽化物水溶液との反應 (俵會員紹介)

昭和五年十二月

- 一 コーレンチア浸漬に由來せるエンドウ根端に於ける巨大核及び巨大細胞起因の組織異常に就て (池野會員紹介)
 - 一 家蠶の雄に於ける生殖器の重複 (石川會員紹介)
 - 一 聯立微分方程式解の決定に就て
 - 一 聯立常微分方程式の積分曲線の集合に就て (以上二件 高木會員紹介)
 - 一 蛙及び蟾蜍の腎臓に於ける血液循環の模様
 - 一 尿成分の絲毬體及び腎細管より排出せらるゝ割合に就て
 - 一 腎臓の葡萄糖排泄関に就て (以上三件三浦會員紹介)
 - 一 三鷹村菱形基線に於ける面積變化の地球物理學的意義 (寺田會員紹介)
- 昭五年十二月
- 一 北日本産ステアラ屬の扁平なる一種に就て 會員 丘 淺次郎
 - 一 (Gr) 總和可能の級數の收斂に就て 山 下 千 歳
 - 一 解析の函數の展開に就て (以上二件 藤原會員紹介) 高 橋 信 一
 - 一 檜の材質より得たる精油中一二の新物質に就て (鈴木會員紹介) 高 橋 彌 三
 - 一 伊豆地震發生直前の伊東附近に於ける水準檢測成果(末廣會員紹介) 地 震 研 究 所

- 一 關東地方に於ける地殻垂直運動に就て
關東地方に於ける地殻の水平運動と垂直運動との關係に就て (寺田會員紹介) 宮部直巳
- 一 地震に伴ふ光現象に就て 會員 寺田寅彦
- 一 南朝鮮のカムブリア及オルドビス紀動物化石並にオルドビス紀地理に於ける秦嶺京城線の意義に就て (矢部會員紹介) 小林貞一
- 一 柿の人工脱澱に關する研究 (眞島會員紹介) 掛下謹次郎
- 一 越後中部沿岸地方に於ける漸進的地形變動に就て 會員 今村明恒
- 一 關東大地震に伴へる地塊運動と其の後の運動經過に就て最近の伊豆大地震に就て (講演)

昭和六年一月

- 一 たまみじんこ及び他の生物の死亡率の比較
- 一 生活率と生物に及ぼす温度の影響
- 一 飼養容量と生物の群衆増大との關係
- 一 生物の單位質量を基礎とする活力の年齢的變化
- 一、みぢんこの一種の酸素消費量
- 二、牛乳の分泌量
- 一 爬虫類の染色體第三報トカゲ類の染色體に就て (以上五件 石川會員紹介) 中村健兒
- 一 グリキユロン酸醱酵に就て (鈴木會員紹介) 高橋勇造
- 一 緩漫なる變化を伴ふ力學系に關する一定理 (平山(清)會員紹介) 萩原雄祐
- 一 寺尾新

- 一 鴨跖草の花の色素に就て (眞島會員紹介) 黒田チカ
- 一 視空間構造の實驗的研究 (松本(亦)會員紹介) 小保内虎夫
- 一 カリセリドの分離に就て第六報—第十八報 鈴木 鈴木文助
- 一 大豆レシチン第二報 鈴木 鈴木文助
- 一 不飽和脂肪酸の選擇的水素添加及び其の構造第二報家 鈴木 鈴木文助
- 一 蠶蛹油のイソリノール酸 (以上三件 鈴木會員紹介)
- 一 昭和三年五月二十一日東京強震當時及び其以前に起りたる地盤の水準變更に就て—東京市を縦貫せる活斷層 會員 今村明恒
- 一 景教碑文の大泰國に就て (講演) 會員 白鳥倉吉

昭和六年二月

- 一 ナキタリス葉の有効成分の生物學的實驗 (三浦會員紹介) 會員 小林芳人
- 一 水レプトスピラを純粹に培養する方法に就て 會員 北岡正見
- 一 家兎の溫刺によりて起るリポイド新陳代謝に關する實驗的研究 (以上二件 稻田會員紹介) 濱野秀作
- 一 イクチオアテラ、ウオピルの解剖に就て 會員 萩原雄祐
- 一 緩漫なる變化を伴ふ力學系に關する一定理 (平山(清)會員紹介)

- 一 小惑星の軌道の修正(第五報) { 會員
- 一 生活單位を基礎とする生物活力の年齢的變化、第二牛乳の分泌量 }
- 一 臺灣産ミチシルベ科の二新種に就いて (以上二件 石川會員紹介)
- 一 聯立常微分方程式の積分曲線の集合に就いて (吉江會員紹介)
- 一 周圍固着せられたる矩形狀の板の端より受くる壓力による皺曲に就いて { 末廣會員紹介
- 一 周圍固着せられたる矩形狀の板の横振動に就いて }
- 一 自然數論に關して 會員
- 一 可解置換群の原始性に就いて 會員
- 一 論理代數學に就いて(第三) (以上二件 高木會員紹介)
- 一 ベチユニアに於て花柱を子房に接木する實驗 (池野會員紹介)
- 一 水素及ヘリウムに於ける爆發放電に依て生ずるスペクトル { 會員
- 一 蛇毒により生成せらるるリゾレシチンに就いて }
- 一 アミノ酸に關する理論化學的研究(第四報) { 會員

(以上二件 鈴木會員紹介)

秋平 清
寺 新
鹿野 忠雄
福原 滿洲雄
妹澤 克惟
高木 貞治
竹田 貞清
黒田 成勝
安田 貞雄
長岡 半太郎
二神 哲五郎
岩田 元兄
高柳 學三郎
早川 堅太郎

昭和五年三月

- 一 繪畫館に適當なる照明 { 會員
- 一 支那産ヘミクレアシスの一新種に就いて }
- 一 日本上部白堊紀産アナプチークス類似體 { 會員
- 一 フイリツピン産土壤纖毛虫二種の記載 (佐々木會員紹介)
- 一 オリザニン(ウキタミンB)結晶の抽出に就いて }
- 一 牛乳中のリポイドに就いて (以上二件 鈴木會員紹介)
- 一 X線を放射せられし植物組織に於ける特殊細胞群の浸潤に由来する組織異常及び結節初期の生起に就いて { 會員
- 一 コオレンテア浸漬幼植物根端の細胞學的變化に關する攷察(一)短時間浸漬せられし根端(α)七分半處理材料に就いて(そらよめ) }
- 一 コオレンテア浸漬幼植物根端の細胞學的變化に關する攷察(二)(β)十分浸漬せられしそらよめ根端に於ける變化 { 會員

(以上三件 池野會員紹介)

中井 清太郎
神谷 鐘太郎
丘 淺次郎
長 巧
澁谷 正健
大嶽 了
佐々木 林治郎
小室 英夫
長岡 半太郎
今村 明恒

第二十七 授賞事項及受賞者 (×印ハ死亡)

明治四十四年七月五日

恩賜賞 第一號 地軸變動ノ研究特ニZ項ノ發見

理學博士 木村 榮

明治四十五年五月十二日

同 第二號

佛文日清戰役國際法論及佛文日露陸戰國際法論

法學博士 ×有 賀 長 雄

同 第三號 日本醫學史

富 士 川 游

同 第四號 公孫樹ノ精蟲ノ發見

×平 瀨 作 五 郎

同 第五號 蘇鐵ノ精蟲ノ發見

理學博士 池 野 成 一 郎

帝國學士院賞 第一號 アドレナリンノ發見

工學博士 ×高 峰 讓 吉

大正二年七月五日

恩賜賞 第六號 續日本後紀纂註

×村 岡 良 弼
醫學博士 上 坂 熊 勝

同 第七號 腦神經起首ノ研究

帝國學士院賞 第二號 外部寄生性吸蟲類ノ研究 理學博士 五 島 清 太 郎

同 第三號 軍艦ノ設計殊ニ巡洋戰艦ノ設計 ×近 藤 基 樹

大正三年七月五日

恩賜賞 第八號

哺乳動物ノ心臟ニ於ケル刺戟傳導筋系統ノ研究 醫學博士 田 原 淳

帝國學士院賞 第四號 左氏會箋

×竹 添 進 一 郎

同 第五號 力學研究

理學博士 ×日 下 部 四 郎 太

大正四年七月五日

恩賜賞 第九號 スピロヘータバリーダノ研究

醫學博士 ×野 口 英 世

帝國學士院賞 第六號 雲 養 集

子 爵 ×金 允 植

同 第七號 蠶ノ遺傳研究

農學博士 ×外 山 龜 太 郎

大正五年七月二日

恩賜賞 第十號 假名ニ關スル研究

×大 矢 透

同 第十一號 周公ト其時代

文學博士 ×林 泰 輔

同 第十二、十三號

黃疸出血性スピロヘーテ病ニ關スル共同研究

帝國學士院賞 第八、九、十、十一號

無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ關スル研究

同 第十二號 鐵ニ關スル研究

大正六年七月一日

恩賜賞 第十四號 日本歌學史及和歌史ノ研究

同 第十五號

ラウエ映畫ノ實驗方法及其説明ニ關スル研究

帝國學士院賞 第十三號 漆ノ主成分ニ關スル研究

同 第十四號

スピネルノ原子配置並ニ歪ヲ受ケタル物體ノレントシエン線検査ニ關スル研究

醫學博士 × 稻田龍吉

工學博士 × 鳥井恒太郎

北村政次郎

本多光太郎

理學博士 佐々木信綱

文學博士 寺田寅彦

眞島利行

理學博士 西川正治

眞島利行

理學博士 柴田桂太

和田英松

木村泰賢

理學博士 桂田富士郎

醫學博士 藤浪鑑

法學博士 瀧本誠一

醫學博士 石原純

醫學博士 × 高田忠周

醫學博士 × 市川厚一郎

醫學博士 × 市川厚一郎

大正七年五月十二日

恩賜賞 第十六號 宸記集及皇室御撰解題

同 第十七號 印度六派哲學

同 第十八號

植物界ニ於ケルフラヴォン體ノ研究

帝國學士院賞 第十五、十六號

日本住血吸蟲病ノ研究

桂公爵記念賞 第二號 日本經濟叢書

大正八年五月二十五日

恩賜賞 第十九號

相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究

帝國學士院賞 第十七號 漢字ノ研究(古籀篇)

同 第十八、十九號 癌ノ研究

同 第二十號

滿俺青銅其他ノ銅合金及鑄鐵ノ鑄造ニ關スル研究

石川登喜治

大正九年五月三十日

恩賜賞 第二十號 法制史之研究

文學博士 三浦周行

同 第二十一號 脂油ノ研究

工學博士 辻本滿丸

帝國學士院賞 第二十一號 密教發達志

×大村西崖

同 第二十二號 音ノ異常傳播ノ研究

理學博士 藤原咲平

桂公爵記念賞 第二號 臺灣植物ノ研究

理學博士 早田文藏

大正十年五月二十二日

恩賜賞 第二十二號 日本佛教史之研究

文學博士 辻善之助

同 第二十三號 腦ノ解剖的研究

醫學博士 布施現之助

帝國學士院賞 第二十三號 クモヒデトノ研究

理學博士 松本彦七郎

同 第二十四號 日本刀ノ研究

工學博士 俵國一

桂公爵記念賞 第三號 河豚ノ毒素ノ研究

藥學博士 田原良純

大正十一年五月二十一日

恩賜賞 第二十四、二十五號 スタルク效果ノ研究

理學博士 高嶺俊夫

帝國學士院賞 第二十五號 生體染色法ニ就テノ研究

醫學博士 清野謙次

同 第二十六號 傳動軸ノ振レ計ノ研究

工學博士 末廣恭二

大正十二年五月二十七日

恩賜賞 第二十六號 近世日本國民史

德富猪一郎

同 第二十七號 本朝文粹註譯

×柿村重松

同 第二十八號 漢藥成分ノ化學的研究

藥學博士 朝比奈泰彦

同 第二十九號 放射線ニ關スル研究

理學博士 木下季吉

大正十三年六月八日

恩賜賞 第三十號 長慶天皇御即位ノ研究

故文學博士 八代國治

同 第三十一號

蛋白質及之ヲ構成スルアミノ酸ノ細菌ニ因ル分解トアミノ酸ノ合成ニ關スル研究

醫學博士 佐々木隆興

帝國學士院賞 第二十七號

貨幣ト價值並ニ經濟法則ノ論理的性質

法學博士 × 左右田 喜一郎

同 第二十八號 類脂肪體ノ研究

醫學博士 川 村 麟也

同 第二十九、三十號 副營養素ノ研究

農學博士 鈴木 梅太郎

桂公爵記念賞 第四號 大日本金石史

× 高橋 克己

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第一號

木崎 愛吉

和鏡聚英續和鏡聚英

廣瀬 治兵衛

同 第二號 放射線ノ研究ニ使用スル膨脹器ノ研究

清水 武雄

同 第三號

神經組織ノ炭酸發生並ニ炭酸ノ微量測定法ニ關スル研究

醫學博士 田代 四郎助

大正十四年五月三十一日

恩賜賞 第三十二號 三階教ノ研究

文學博士 矢吹 慶輝

同 第三十三號

構造物ノ振動殊ニ其ノ耐震性ノ研究

工學博士 物部 長穂

帝國學士院賞 第三十一號 白鼠ニ關スル研究

畑井 新喜司

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第四號

氣體ノ磁氣計數ノ測定

理學博士 曾 禰 武

大正十五年五月十六日

恩賜賞 第三十四號 日本紋章學

沼田 頼輔

同 第三十五號

中國地方ノ古生層及中生層ノ層位學上ノ研究

理學博士 × 小澤 儀明

帝國學士院賞 第三十二號

メシア思想ヲ中心トシタルイスラヘル宗教文化史

同 第三十三號

宋末ノ提舉市舶西城人蒲壽庚ノ事蹟

文學博士 桑原 隲藏

同 第三十四號

元良式船舶動搖制止裝置ノ研究

工學博士 元良 信太郎

同 第三十五號 オキシダーゼノ組織學的研究

醫學博士 勝 沼 精 藏

同 第三十六號 水銀避雷器ノ研究

工學博士 密 田 良 太 郎

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第五號

東京日日新聞

工學博士 齋 藤 平 吉

熱秤分析法ノ研究

同 醫學博士 齋 藤 平 吉

同 第六、七號

同 醫學博士 齋 藤 平 吉

同 第八號

同 醫學博士 齋 藤 平 吉

數種ノ日本產植物ニ關スル化學的研究

理學博士 小 松 茂

昭和二年五月

恩賜賞 第三十六號

唐宋時代ニ於ケル金銀ノ研究(但シ其ノ貨幣的機能ヲ中心トシテ)

文學博士 加 藤 繁

同 第三十七號 金屬錯鹽ノ分光化學的研究

理學博士 柴 田 雄 次

帝國學士院賞 第三十七號

醫學博士 加 藤 元 一

神經ニ於ケル不減衰傳導ニ關スル研究

醫學博士 加 藤 元 一

帝國學士院賞 第三十八號

本邦產石油ノ成分並ニ應用ニ關スル研究

工學博士 田 中 芳 雄

桂公爵記念賞 第五號 朝鮮植物ノ研究

理學博士 中 井 猛 之 進

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第九號

東京日日新聞

理學博士 村 上 武 次 郎

特殊銅ノ物理冶金學的研究

醫學博士 土 肥 慶 藏

同 第十號 微毒ノ起源ニ就テ

醫學博士 土 肥 慶 藏

昭和三年四月十四日

恩賜賞 第三十八號 租稅研究

法學博士 神 戶 正 雄

同 第三十九號

法學博士 神 戶 正 雄

聯立積分方程式及ビ之ニ關聯セル函數論的研究

理學博士 掛 谷 宗 一

帝國學士院賞 第三十九號 日本歌謠史

文學博士 高 野 辰 之

同 第四十號 高速度艦船ニ關スル研究

工學博士 平 賀 讓

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第十一號

東京日日新聞

本邦產植物ニ含マル、數種ノアルカロイドニ關スル研究

藥學博士 近 藤 平 三 郎

昭四年四月二十六日

恩賜賞 第四十號

地球及地殻ノ剛性並ニ地震動ニ關スル研究

理學博士

志田

順

帝國學士院賞 第四十二號 極東颶風論

理學博士

堀口

由巳

同 第四十二號 東洋音樂ノ研究

桂公爵記念賞 第六號 日本甲冑ノ新研究

理學博士

田邊

尚雄

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第十二、十三、十四、十五號

醫學博士

高木

謙三

鼠咬症ノ研究

同

大谷

真八

同 第十六、十七號

鼠咬症ノ實驗的研究

同

石原

久太郎

昭和五年五月十五日

恩賜賞 第四十一號

日本人ノ動脈系統

醫學博士

足立文太郎

帝國學士院賞 第四十三號

瀬戸内海ノ潮汐及潮流ニ關スル研究

理學博士

小倉

伸吉

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第十八號

小惑星ノ發見

及川

奧郎

昭和六年五月十四日

恩賜賞 第四十二號

地震波ノ生成傳播其他ニ關スル理論的研究

工學博士

妹澤

克惟

帝國學士院賞 第四十四號

印度哲學研究 (全六卷)

文學博士

宇井

伯壽

同 第四十五號

強磁性元素及ヒ其ノ合金ノ物理冶金學的研究

理學博士

増本

量

同 第四十六號

日本ニ於ケル膽石症

醫學博士

三宅

速

第二十八 補助研究事項 (自明治四十一年略之)

昭和五年度

一般獎學資金ニ依ルモノ

- 平安朝時代ノ日記ノ研究
- マハーバストノ研究
- 學習動作ノ實驗的形式の研究殊ニ秩序化過程ト其型式老子ノ校正
- 日本兒童ノ宗教意識ノ研究
- 近畿ニ於ケル歴朝宮跡ノ研究
- 中世ニ於ケル皇室御領
- 近江商人ノ研究
- 切支丹部落ノ社會的研究
- 摩尼教、特ニ支那ニ於ケル摩尼教ノ研究
- 臺灣第三期有孔虫岩ノ層位學的研究
- 植物色素ノ化學的研究(青花ノ色素)

會員

- 松本 愛重
- 平野 通昭
- 小野 右左雄
- 竹中 信以
- 關 寬之
- 濱田 耕夫
- 肥後 和勝
- 中村 直勝
- 菅野 和太郎
- 田北 耕也
- 矢吹 慶輝
- 半澤 長四郎
- 黒田 正太郎

酸性白土ノ理論化學的研究

- 含硫黃アミノ酸ニ關スル研究
- 卵子孵化ノ化學
- アミノ酸類ノ理論化學的乃至生化學的研究
- アサガホノ諸器官ニ於ケル色素生成ノ遺傳學的研究
- キシムシロ屬ニ於ケル染色體數ト種ノ形成及ビ系統
- ナウマン氏ノフォツサ・マガナ(主ニ信越地方)ニ於ケル地質學的研究
- 朝鮮ニ於ケルカンブリヤ系ノ層序學的研究
- ポラログラフニ依ル微量有機化合物ノ電解還元壓研究
- 生物體組織ノ超顯微鏡的構造ノ研究
- 炭素鋼ノ組織カ其機械的性質ニ及ボス影響
- 新シキ三糖體ト其誘導體ニツイテ
- 多相同期電動機特ニ回轉變流機ノ亂調ニ就テ
- アミノ酸ノ合成
- インダスレン熔融ノ化學ニ關スル研究

會員

- 小山林 久平
- 奥田 雅次
- 富田 學而
- 高橋 時雄
- 萩原 直昌
- 下斗米 琢治
- 小川 次郎
- 横山 太郎
- 本間 新太郎
- 中村 益三
- 志方 省五
- 館岡 克己
- 舟岡 守太郎
- 藤井 屹二
- 西田 尙文
- 熊澤 勝左衛門
- 慶松 銳夫
- 牧 夫

纖維素凝固態ノ構造

牛乳ノ組成ニ關スル研究

ゴム種子ノ成分及其利用ニ關スル研究

電子波ノ反射並ビニ屈折

櫻鱒並ビニ琵琶鱒交配試験

シノメニウム及コツケルス屬植物含有ノアルカロイド研究

廻折格子ノ製作

鶏ニ於ケル性ノ決定及ビ分化ニ關スル研究

松方公爵米壽祝賀會寄附獎學資金ニ依ルモノ

宗法ノ研究、特ニ其ノ實狀ノ調査(支那留學)

桑玉蠅ノ研究

大麥畑ニ於ケル連續灌水ノ効力ニ就テノ研究

野生菊屬諸種ノ遺傳研究

X線放射ニ由來スル植物體ニ於ケル Neo-Plasma

子ノ謂フ「X線腫瘍」ノ組織分化ニ關スル研究

本邦内種々ノ氣候ニ適應セル梨樹品種ノ果實ノ化學的及ビ組織學的研究

會員

立	小	野	吉	加	增	朝	近	大	西	神	藪	佐	厚
花	室	原	川	藤	井	野	藤	島	川	戸	田	木	木
千	英	茂	祐	常		虎	瑞	平	正	正	勝	貞	勝
秋	夫	六	輝	賢		清	治	三	滿	治	二	郎	基

ブラシカ屬ノ細胞學及ビ實驗遺傳學的研究

日本産植物蟲癭ノ研究

稻ノ病理學的研究

双豆中ニ含有サル、新鹽基性化合物ノ化學構造ノ研究

植物ノ性染色體ニ關スル研究

植物ノ不稔性ニ關スル細胞學的研究

稻ノ成長期中各週ニ於ケル成長量ノ變化ニ就テ

家蛋ノ退化交尾器ニ關スル遺傳學的研究

大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念獎學資金ニ依ルモノ

朝鮮及ビ滿洲ニ於ケル巫俗ノ研究

地震前ニ起ル地盤傾斜

小惑星ノ運動ノ研究

昭和二年大地震ニ伴フ地殼變動ノ研究

太陽大氣ノ一循環氣流ニ關スル統計的研究

X線ニ依ル鋼ノ成分ノ定量分析

會員

志	關	坪	多	石	平	今	秋	赤	梅	植	竹	篠	北	逸	門	盛
村	口	井	田	本	山	村	葉	松	谷	田	中	遠	川	見	前	永
繁	鯉	忠	文	己	清	明	智		與	幸	喜	松	武	弘	俊	
隆	吉	二	男	雄	次	恒	隆	城	七	輔	要	人	助	多	郎	

小池資金ノ中（醫學關係事項）ニ依ルモノ

- 癌腫ノ實驗的研究
- 恙蟲病原體ノ確定
- 單一筋纖維ノ收縮及ビ其ノクロナキンノニ關スル研究
- 神經系統ノ新陳代謝ノ研究
- 組織體外培養法ノ研究、特ニ同法ヲ應用シタル細菌學及血清學的研究
- 骨質並ニ齒牙ノ生體染色ニ於ケル實驗的研究
- 脊椎動物ノ染色體ニ關スル研究
- 心臟刺戟傳達系ノ生理ニ關スル研究
- 脊髓副交感神經系
- 呼吸色素チトクロームニ關スル研究
- 朝鮮ニ於ケル地方病的關節疾患ニ就テ（所謂朝鮮ノ土疾ニ就テ）
- 間腦ニ於ケル諸核機能ニ關スル實驗的研究

會員
山極勝三郎
宮入慶之助
橋田邦彦
加藤元一
原島義雄
風間義一
木村研一
外野謙
清野一
外野謙
蓑原二
石原誠
吳三建
吳三建
沖中重
矢追秀武
小川明
金川學
篠田哲四
稻垣男

古籙篇刊行會寄附資金ニ依ルモノ

- 支那古代銅器及ビ其銘文ノ研究
- 支那文字ノ研究

會員
內藤虎次郎
飯島忠夫

昭和六年度分

一般資金ニ依ルモノ

- ユースチーニアームス、欽定學說彙纂 第六卷邦譯
- 琉球諸島言語ノ研究
- 古劇研究、歌舞伎以前ヨリ元祿劇江戸中世劇迄ノ研究
- 日本兒童ノ宗教意識ノ研究
- 摩尼教特ニ支那ニ於ケル摩尼教ノ研究
- 切支丹部落ノ社會的研究
- 徳川初期我國在留天主教宣教師ノ編纂印行セシ日本字典及ビ文典ニ關スル國語史的研究
- 支那古樂ノ一般的研究特ニ古樂ニ關スル文獻ノ索引ノ作製
- 支那音樂特ニ樂律、樂器、樂曲等ニ關スル研究
- 龍樹及ヒソノ時代ヲ中心トセル初期大乘佛教ノ研究

船田享二
宮良當壯
高野辰之
關寬之
矢吹慶輝
田北耕也
近藤國臣
布川壽
石井文雄
宮本正尊

補助研究事項

- 關東大地震ニ於ケル房總半島地殼變動ノ研究
- 大地溝帶地質構造
- 廻折格子ノ製作
- 固體間ノ反應速度ニ及ボスラザウム放射線
火花ノ遅レ
- 北海道ニ於ケル第三紀火山活動ノ層位學的研究
- コンクリート強度ヲ目的トスル「センメント」試験方法
- 長鎖狀炭素化合物ノ結晶構造
- 纖維素凝固態ノ構造
- 新ラシキ容量分析折方法
- インダンスレン熔融ノ化學ニ關スル研究
- 九州有明海ノ魚類ノ研究
- 北部九州ニ於ケル洪積期時代陸獸化石ノ研究

會員

- 末寺 廣田 寅恭 彦二
- 小本 川間 琢二 治彦
- 佐藤 野藤 瑞虎 治穂
- 田丸 節郎 治穂
- 鳥山 四郎 敏男
- 田上 政敏 稔
- 濱田 政敏 稔
- 小田 林 芳之助 雄
- 厚木 勝基
- 宗宮 尙行
- 牧 銳夫
- 富田 山中 一茂 郎 穂
- 徳永 壽四郎 康

松方資金ニ依ルモノ

- 干滿潮線間ニ附着生活ヲ行フ動物特ニ穿岩性辨腮類ノ生態ニ關スル研究
- アラバンノ構造式ニ就イテ
- 天然絹絲ノ再生
- 寫眞乾板ノ感光性ニ關スル研究
- 朝鮮ニ於ケル寒武利亞系ノ層序學的研究
- 脊椎動物ノ染色體ニ關スル研究
- 硝子狀態ノ研究
- 近江商人ノ研究
- 宗法ノ研究特ニ其ノ實狀ノ調査
- 本邦ニ於ケル經營統制ニヨル産業合理化
- 本邦産昆布科ノ研究
- 胡蜂ノ遺傳研究、特ニ性ノ決定ニ就イテ
- 家蠶ニ於ケル雄蛾ノ退化交尾器ニ關スル遺傳學的研究
- 鷄ニ於ケル性ノ決定及ヒ分化ノ研究
- 日本産植物蟲癭研究

會員

- 雨宮 育作
- 西田 屹二
- 喜多 源逸
- 宮田 道雄
- 中村 新太郎
- 蓑内 新太郎
- 外井 郁太郎
- 澤井 郁太郎
- 菅野 和太郎
- 加藤 常賢
- 小島 昌太郎
- 宮部 金吾
- 町田 次郎
- 梅谷 與七郎
- 増井 清
- 門前 弘多

補助研究事項

カボチャノ黄色色素ノ研究
 馬ノ傳染性流産ノ感染機轉並ニ其ノ豫防法
 野生菊屬諸種ノ遺傳研究
 稻ノ成長期中各週ニ於ケル成長量ノ變化ニ就テ
 大豆ニ含有サルル新アミノ酸カナバニンニ就イテ
 植物ノ種々ノ生理作用ト其ノ營養體部ニ現ハル、色素トノ關係
 プラシカ屬ノ細胞學及實驗遺傳學的研究

大毎資金ニ依ルモノ

朝鮮及滿州ニ於ケル巫俗ノ研究
 琉球語大辭典
 地震ノ前後ニ發生スル地形變動ノ研究
 小惑星ノ運動ニ就テ
 太陽大氣ノ一般循環ニ關スル統計的研究

小池資金ニ依ルモノ

朝鮮北部山間地方ニ於ケル地方病的骨關節疾患(土疾)

會員

杉野目晴貞
 葛西勝彌
 野原茂六
 植田宰輔
 北川松之助
 小坂博
 盛永俊太郎
 赤松智隆城
 伊波普猷
 今村明恒
 平山清次
 關口鯉吉
 朴川源蕃

腦間ニ於ケル諸核機能ニ關スル實驗的研究
 細菌ニ於ケルエネルギー發生反應ノ研究
 表面活性質ノ生化學

枕毒素血清ノ濃縮

麻刺利亞傳播蚊ノ習性

神經系統ノ新陳代謝ノ研究

心臟刺戟傳達系ノ生理ニ關スル研究

淋巴管系ノ研究

組織體外培養ノ研究特ニ同法ニ依ル細菌學並ニ血清學ノ研究

亞性腫物(特ニ肉腫)ノ病理特ニ組織發生ニ就テ

單一筋纖維ノ收縮及クロナキシンニ關スル研究

ピウレット反應速度ニ及ボスラザウム放射線

會員

稻篠田崎宣哲四男
 藤田秋治
 柿野三郎
 湯野健兒
 鈴木三治郎
 加藤元一
 原義雄
 磯村
 石原誠
 木原卓三郎
 外村究員
 藤浪
 橋田邦彦
 富田雅次

淋巴球及淋巴系統ノ研究

本邦風土及風習ニ對スル和洋兩服裝ノ衛生學的研究

黴毒ノ實驗的研究殊ニ潜伏性黴毒ノ諸問題

古籀篇資金ニ依ルモノ

朝鮮文學史及朝鮮學人文集ノ研究

支那古代銅器及ヒ其ノ銘文ノ研究

支那文字ノ研究

計 六九件

會員

〔外長〕 與四又
〔外戶〕 田正
松本 信一 三名

多田 正知
内藤 虎次郎
飯島 忠夫

第二十九

有栖川宮記念獎學資金受領者トシテ

高松宮家へ補助推薦ノ研究事項 (自昭和二年略之至同四年略之)

昭和五年六月、同十二月推薦

國語ノ表現法ト日本人ノ思想形態ニ就テノ研究
列聖及皇族御撰ノ研究及出版

城戸 幡太郎
和田 英松

印度ニ於ケル佛教像ト一般神像トノ關係
(密教儀軌及ヒプーラナーチ中心トシテノ研究)

室町時代ニ於ケル琉球朝鮮及ヒ支那トノ關係

東洋特ニ日本ノ建築技術ニ關スル歴史的研究

昭和六年五月推薦

國語ノ表現法ト日本人ノ思想形態ニ就テノ研究

列聖及ヒ皇族御撰ノ研究

心學教化ト藩閥教育トノ關係

日本石器時代文化ノ研究

逸見 梅榮
秋山 謙藏
藤島 亥治郎

〔松八〕 幡太郎
石川 英松
和田 英松
城戸 幡太郎

第三十

東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ

研究事項 (自大正五年略之至昭和四年略之)

昭和五年二月推薦

農村社會生活ノ統計的研究

源氏物語諸註集成

〔藤那〕 須皓
池田 龜鑑

寺院門前町ノ研究

稻ノ開花ニ對スル外界ノ影響ニ就テ

本邦風土及風景ニ對スル和洋兩服裝ノ衛生的研究

實驗的黴毒(特ニ潜伏性黴毒問題)

冶金爐内ノ化學的變化ニ就テ

電氣探鐵法ニ就テ

禾穀類ニ於ケル遺傳學的並ビニ細胞學的實驗

緩衝劑ノ研究

コンクリート強度ヲ目的トスル試驗方法

副腎ヨリアドレナリン分泌ニ就テノ研究

昭和六年二月推薦

本邦天文古記録ノ蒐集

寺院門前町ノ研究

稻ノ開花ニ對スル外界ノ影響ニ就テ

立平

野立

外戸

松本

渡邊

和義

藤田

西原

宮内

濱田

立平

神平

野口

彌嘉

花沼

田口

正彌

信一

俊爾

義象

市三

三均

安太

璋郎

清嘉

淑美

嘉美

淑美

三吉

一名

雄一

爾象

均三

太郎

璋郎

清嘉

淑美

茂次

吉美

郎美

蟋蟀科昆蟲ニ於ケル細胞學的並ニ遺傳學的ノ研究

電氣探鐵法ニ就テ

鋼中ニ含マレタルマンガンニツケルクロームX線の定量分析ノ研究

静岡縣下ノ第三紀層

日光山中諸湖ノ生物學的調査

アサカホノ諸器官ニ於ケル色素生成ニ關スル生理遺傳學的研究

禾穀類ニ於ケル遺傳學的並ニ細胞學的實驗

キシムシロ屬ニ於ケル遺傳學的核學的研究

朝鮮ニ於ケル血液型ノ研究

北部日本ニ於ケル氣候的土壤帶ノ研究ニ就テ

細胞及核ノ分裂ノ機構

牛乳ノ組成ニ關スル研究

コペル反應ニ依ル高級炭化水素ノ合成

昆蟲ノ營養生理

篠松	佐平	藤若保和篠	田三	外佐	下斗	西木	萩原	宮地	横山	志村	藤田	大町
田井	木塚	井山井田遠	町宅	藤三	米斗	山原	原時	地傳	山次	村繁	田義	町文
	元林	健邦コ文喜	以康	武直	市均	市均	時均	傳三	次郎	繁隆	義象	文衛
統興	郎吉	郎照ノ吉人	男次	名雄	昌三	均三	均三	三郎	郎隆	隆象	象衛	

藤田男爵獎學費受費者

一一六

小麥蛋白ニ關スル研究
本邦產密柑ノ農業地理學的研究
接觸媒作用ノ物理化學的研究

近藤 山崎 藤金助
堀崎 直樹
李場 泰信 圭吉

右學術研究資金及研究費補助事項ニ關シ研究者ノ報告等ハ每年別ニ「學術研究獎勵資金及事業一覽」ヲ以テ刊行ス

第三十一 藤田男爵獎學費受費者 (自大正七年略之) 至昭和四年略之)

昭和五年六月

羅馬法學獎學費

東京帝國大學法學部學生 田子 獎
京都帝國大學法學部學生 谷口左紀 雄
東京帝國大學大學院學生 吉城 肇 蔚
同 理學部學生 渡邊 武男

採鑛冶金學及關係學科獎學費

第三十二 子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品

受品者 (自大正七年略之) 至昭和四年略之)

昭和五年六月

東京帝國大學法學部學生 福井勇三郎 田子 獎 本城直彦
石井良助 金原 敬 永田大二郎
京都帝國大學法學部學生 於保不二雄 綿谷脩次 野口重之
谷口左紀雄 栗原 寬
京城帝國大學法學部學生 張厚 永相原俊雄
早稻田大學法學部法律學科學生 長谷川健夫 坂本榮一 渡邊秀育

子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者

一一七

第三十三 役員

大正十五年二月十七日	院 長	櫻 井 錠 二
昭和二年七月一日	幹 事	文 學 博 士 姊 崎 正 治
大正十五年三月二十日	第一部長	法 學 博 士 富 井 政 章
昭和二年七月一日	第二部長	醫 學 博 士 佐 藤 三 吉
大正十五年十二月二十一日		
昭和五年七月一日		
昭和二年七月一日		
大正十三年七月一日		
昭和五年七月一日		
昭和二年七月一日		

第三十四 會員及客員

一 會 員

員

(*印ハ東京學士會院會員トナレル年月日ニシテ明治三十九年六月十二日孰モ帝國學士院會員ト改マル)

* 明治十八年 十二月十五日	第二部	醫 學 博 士 三 宅 秀
* 明治三十一年 四月十七日	第二部	理 學 博 士 櫻 井 錠 二

* 同三十二年 二月十二日	第二部	理 學 博 士 小 藤 文 次 郎
* 同三十三年 六月三十日	第一部	文 學 博 士 坪 井 九 馬 三
* 同三十五年 十二月十四日	第二部	醫 學 博 士 小 金 井 良 精
同三十九年 九月十四日	第二部	工 學 博 士 古 市 公 威
同	第二部	理 學 博 士 田 中 館 愛 橋
同	第一部	法 學 博 士 富 井 政 章
同	第一部	法 學 博 士 土 方 寧
同	第二部	理 學 博 士 藤 澤 利 喜 太 郎
同	第二部	醫 學 博 士 三 浦 謹 之 助
同	第二部	理 學 博 士 長 岡 半 太 郎
同	第一部	法 學 博 士 一 木 喜 德 郎
同 同 年 十 月 二 十 四 日	第一部	文 學 博 士 上 田 萬 年
同 同 年 八 月 四 日	第一部	文 學 博 士 三 上 田 萬 年
同 同 年 十 一 月 二 十 八 日	第一部	法 學 博 士 金 井 延

明治四十二年六月二十二日	第二部	醫學博士	佐藤三吉
同年十一月三十日	第二部	理學博士	平山信
同四十四年一月十一日	第一部	法學博士	美濃部達吉
同年四月二十八日	第二部	理學博士	石川千代松
明治四十五年二月二十七日	第一部	文學博士	高楠順次郎
大正二年五月二十九日	第一部	法學博士	山崎覺次郎
同六年六月二十二日	第一部	文學博士	服部宇之吉
同年十二月二十六日	第一部	法學博士	小野塚喜平次
同七年六月二十五日	第二部	理學博士	水野敏之丞
同	第一部	法學博士	織田萬
同八年二月二十八日	第二部	理學博士	池田菊苗
同年三月二十六日	第一部	文學博士	白鳥倉吉
同年十二月五日	第一部	文學博士	松本文三郎
同九年五月一日	第一部	法學博士	春木一郎

同年十月二十七日	第二部	理學博士	三好學
同年十一月二十九日	第一部	法學博士	立作太郎
同年十二月二十八日	第二部	醫學博士	荒木寅三郎
同十年一月二十四日	第一部	文學博士	松本亦太郎
同十一年四月七日	第二部	理學博士	佐々木忠次郎
同年十二月二十六日	第二部	理學博士	本多光太郎
同十二年三月十日	第二部	工學博士	高松豐吉
同年五月三日	第二部	醫學博士	宮入慶之助
同年十一月二十八日	第一部	文學博士	姊崎正治
同十四年二月三日	第一部	法學博士	田島錦治
同年四月八日	第一部	文學博士	市村瓚次郎
同年六月二十七日	第二部	藥學博士	田原良純
同	第一部	法學博士	橫田秀雄
同	第一部	農學博士	新渡戶稻造

同年	五月五日	第二部	理學博士	真島利行
昭和二年	四月四日	第二部	理學博士	池野成一郎
同		第一部	法學博士	松波仁一郎
同年	六月三日	第一部	文學博士	西田幾多郎
昭和二年	七月四日	第二部	工學博士	末廣恭二
同年	七月二十八日	第一部	法學博士	矢作榮藏
同年	十一月一日	第二部	理學博士	吉江琢兒
同年	十一月二十五日	第一部	文學博士	幸田成行
昭和三年	二月一日	第一部	文學博士	新村出
同年	四月六日	第一部	法學博士	高田早苗
同年	五月一日	第二部	醫學博士	稻田龍吉
同年	五月二十一日	第一部	文學博士	關根正直
同四年	四月二十二日	第一部	醫學博士	佐伯定胤
同年	十一月十一日	第二部	醫學博士	藤浪鑑

第三十五 各部分科並二定員

第一部

同五年	一月九日	第二部	理學博士	宮部金吾
同年	四月一日	第二部	藥學博士	朝比奈泰彦
同年	五月二十六日	第二部	醫學博士	足立文太郎
同		第一部	文學博士	藤井乙男
昭和五年	八月九日	第一部	法學博士	神戶正雄
同六年	一月三十一日	第一部	文學博士	和田英松
同年	四月一日	第二部	理學博士	岡田武松
同年	六月十五日	第一部	文學博士	濱田耕作

第一分科——法律學、政治學、經濟學 定員 二十五人
 第二分科——哲學、史學、文學 定員 二十五人

各部分科並二定員

第二部

- 第一分科——星學、數學 定員 七人
- 第二分科——物理學、化學 定員 十一人
- 第三分科——地球物理學、地質學 定員 八人
- 第四分科——生物學、醫學 定員 十六人
- 第五分科——工學、農學 定員 八人

二客員

- 昭和三年五月十二日
- 同四年 四月十二日
- 同六年 六月十二日

シヤヴァン レヴィ
Sylvain Lévi
サー アルフレッド エウイング
Sir Alfred Ewing
ドクトル ハンス モリッシュ
Dr. Hans Molisch

第三十六 委員事業擔當會員、囑託員

一 帝國學士院紀事及別冊出版委員

大正十五年三月二十日	委員長	文學博士	姊崎正治
昭和二年七月一日	委員	文學博士	三浦謹之助
昭和五年七月一日	編纂主任	醫學博士	長岡半太郎
自明治四十四年六月十二日	同	理學博士	平山信
至昭和五年七月一日	同	理學博士	美濃部達吉
大正十四年九月十九日	同	法學博士	石川千代松
昭和二年七月一日	同	理學博士	高楠順次郎
昭和五年七月一日	同	文學博士	松本亦太郎
大正十五年四月十二日	同	文學博士	
昭和二年七月一日	同		
昭和五年七月一日	同		

委員及事業擔當會員、囑託員

大正十四年九月十九日
昭和二年七月一日
昭和五年七月一日
同
同
同
同
同
昭和四年十月十二日
昭和五年七月一日
昭和五年 七月一日

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

吉川祐輝
今村明恒
倭國一
鈴木梅太郎
高木貞治
小川琢治
山崎覺次郎

二 學術研究獎勵金運用委員

昭和三年二月十四日

委員長

文學博士

姊崎正治

同

委員

法學博士

富井政章

同

同

醫學博士

佐藤三吉

同

同

法學博士

山崎覺次郎

同

同

法學博士

加藤正治

同

同

工學博士

倭國一

同

同

法學博士

矢作榮藏

同四年七月九日

同

文部省會計課長

河原春作

三 和算史調査

大正六年十月十二日

擔當會員

理學博士

藤澤利喜太郎

昭和四年五月二十二日

長

澤正治

四 帝室制度ノ歴史的研究

大正九年三月十六日
同十五年二月主任推薦

擔當會員主任

文學博士

三上參次

同九年三月十六日

同

法學博士

美濃部達吉

同十一年二月二十五日

同

文學博士

服部宇之吉

昭和六年二月十三日

同

文學博士

和田英松

同

囑託員

文學博士

山本信哉

同年九月六日

同

文學博士

田邊勝哉

委員及事業擔當會員、囑託員

同年	十月五日	同	淺野長武
同十一年	二月十七日	同	諸野轍次
同十二年	四月二十六日	同	龍橋
同十三年	十一月一日	同	芝葛
同十四年	一月三十一日	同	黑井大圓
同		同	藤原猶雪
同		同	高橋隆三
昭和二	年十月二十日	同	武田政一

五 我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

昭和四	年四月十二日	擔當會員	文學博士	坪井九馬三
同	三月一日	囑託員		板澤武雄

六 北畠親房及ピンノ子孫ノ事蹟研究

昭和二	年二月十二日	擔當會員	文學博士	三上參次
-----	--------	------	------	------

同 二年四月二十三日

囑託員

伊木壽一

七 インドネジャ習慣法辭典編纂

昭和四	年三月十二日	擔當會員	文學博士	姉崎正治
昭和四	年四月一日	囑託		宇野圓空
同五年	四月一日	同		櫻井時雄
同六年	四月一日	同		古野清人
同		同		高月昭

第三十七 事務職員

昭和六	年六月五日	主事	書記官省	石丸優三
明治四	十二年十二月八日	書記		金坂周次
昭和四	年四月十五日	囑託		古野清人
昭和五	年七月三十一日	同		砂子茂
大正十	五年六月十二日	同		市橋靜子
昭和五	年三月三十一日	同		三谷よし枝

同二年 三月十七日
昭和六年六月十五日

津田虎雄
住吉武

第三十八 帝國學士院前役員 (×印ハ死亡者)

院長

自明治三十九年八月 至同 四十二年六月	文學博士 男爵 ×加藤弘之
自明治四十二年七月一日 至大正六年八月二十日	理學博士 男爵 ×菊池大麓
自大正六年十月二十日 至同十四年十月十二日	法學博士 男爵 ×穗積陳重
自大正十四年十一月十七日 至同 十四年十二月二十三日	法學博士 男爵 ×岡野敬次郎

幹事

自明治三十九年八月 至同 四十二年六月	文學博士 ×重野安釋
自明治四十二年七月 至大正二年七月	法學博士 ×宮崎道三郎

自大正二年七月十一日
至同十五年二月十七日

第一部々長

自明治三十九年七月十二日 至大正 六年十月二十日	理學博士 櫻井錠二
自大正六年十一月二十四日 至同十五年十一月十八日	法學博士 男爵 ×穗積陳重
	文學博士 井上哲次郎

第二部々長

自明治三十九年八月 至同 四十二年六月	理學博士 男爵 ×菊池大麓
自明治四十二年七月一日 至大正 十年六月三十日	工學博士 男爵 古市公威
自大正十年七月一日 至同十三年六月三十日	理學博士 藤澤利喜太郎

第三十九 帝國學士院前會員及客員 (×印ハ死亡者)

一前會員

自明治三十九年六月十二日
至同 四十年八月十四日

子爵 ×福羽美靜

帝國學士院前會員及客員

自明治三十九年六月十二日 至同年八月三十日	文學博士 × 黒川 眞 賴
自明治三十九年六月十二日 至同年十月三日	文學博士 × 根本 通 明
自明治三十九年六月十二日 至同年十二月廿二日 (昭和六年六月二十六日死亡)	理學博士 × 山 川 健 次 郎
自明治三十九年十月二十四日 至同年十一月二十四日	文學博士 × 佐 藤 誠 實
自明治三十九年六月十四日 至同年四月十八日	醫學博士 × 橋 本 綱 常
自明治三十九年六月十二日 至同年四月十七日	理學博士 × 箕 作 佳 吉
自明治三十九年九月十四日 至同年八月二十五日	法學博士 × 梅 謙 次 郎
自明治三十九年六月十二日 至同年四月十五日	文學博士 × 重 野 安 釋
自明治三十九年九月十四日 至同年十月五日	男 爵 × 大 鳥 圭 介
自明治三十九年九月十四日 至大正元年十二月十三日	文學博士 × 元 良 勇 次 郎
自明治三十九年六月十二日 至同年四月十五日	工學博士 × 下 瀬 雅 允
自明治三十九年六月十二日 至同年四月十五日	法學博士 × 穂 積 八 東
自明治三十九年九月十四日 至大正二年五月二十六日	理學博士 × 坪 井 正 五 郎
自明治三十九年九月十四日 至大正二年二月二日	醫學博士 × 三 浦 守 治
自明治三十九年六月十二日 至大正五年二月九日	文學博士 男爵 × 加 藤 弘 之
自明治三十九年六月十二日 至大正五年六月二十二日	男 爵 × 田 中 芳 男
自明治三十九年六月十二日 至大正六年八月二十日	理學博士 男爵 × 菊 池 大 麓
自明治三十九年九月十四日 至大正六年九月十日	文學博士 × 星 野 恒
自明治三十九年六月十二日 至大正六年十二月四日	法學博士 × 杉 享 二
自明治三十九年九月十四日 至大正六年十二月二十四日	醫學博士 男爵 × 青 山 胤 通
自明治四十一年八月四日 至大正七年四月七日	醫學博士 × 隈 川 宗 雄
自明治三十九年九月十四日 至大正七年十二月二十一日	文學博士 × 中 島 力 造

自明治三十九年九月十四日 至大正二年二月十五日	文學博士 × 本 居 豐 穎
自明治三十九年六月十二日 至大正二年四月十四日	文學博士 × 木 村 正 辭
自明治三十九年九月十四日 至大正二年五月二十六日	理學博士 × 坪 井 正 五 郎
自明治三十九年六月十二日 至大正五年二月九日	醫學博士 × 三 浦 守 治
自明治三十九年六月十二日 至大正五年六月二十二日	男 爵 × 田 中 芳 男
自明治三十九年六月十二日 至大正六年八月二十日	理學博士 男爵 × 菊 池 大 麓
自明治三十九年九月十四日 至大正六年九月十日	文學博士 × 星 野 恒
自明治三十九年六月十二日 至大正六年十二月四日	法學博士 × 杉 享 二
自明治三十九年九月十四日 至大正六年十二月二十四日	醫學博士 男爵 × 青 山 胤 通
自明治四十一年八月四日 至大正七年四月七日	醫學博士 × 隈 川 宗 雄
自明治三十九年九月十四日 至大正七年十二月二十一日	文學博士 × 中 島 力 造

帝國學士院前會員及客員

自明治三十九年六月十二日
 至大正 八 年五月十二日
 文學博士 × 三 島 毅
 自明治三十九年六月十二日
 至大正 八 年八月一日
 醫學博士 × 緒 方 正 規
 自明治四十年 六月二十八日
 至大正 八 年十一月十二日
 法學博士 × 松 崎 藏 之 助
 自明治三十九年九月十四日
 至大正 八 年十一月二十一日
 理學博士 × 久 原 躬 弘
 自明治四十二年二月四日
 至大正 九 年九月十三日
 法學博士 × 高 橋 作 衛
 自明治四十年四月九日
 至大正 九 年十月六日
 文學博士 子爵 × 末 松 謙 澄
 自明治三十九年九月十四日
 至大正 十 年三月十四日
 理學博士 × 飯 島 魁
 自明治四十一年 五月二十六日
 至大正 十 年十二月十五日
 法學博士 × 岡 松 參 太 郎
 自大正二年六月二十二日
 至同十一年七月二十二日
 工學博士 × 高 峰 讓 吉
 自明治四十二年四月二十二日
 至大正十二年二月二十五日
 工學博士 × 井 口 在 屋
 自明治三十九年六月十二日
 至大正十二年七月二十日
 文學博士 男爵 × 細 川 潤 次 郎
 自明治三十九年六月十二日
 至大正十二年八月六日
 理學博士 × 寺 尾 壽

自明治三十九年九月十四日
 至大正十二年八月十五日
 法學博士 子爵 × 田 尻 稻 次 郎
 自明治三十九年九月十四日
 至大正十二年十一月八日
 理學博士 × 大 森 房 吉
 自大正 五 年四月二十一日
 至同 十三年二月 二 日
 文學博士 × 萩 野 由 之
 自明治三十九年九月十四日
 至大正十四年十二月二十三日
 法學博士 男爵 × 岡 野 敬 次 郎
 自明治三十九年六月十二日
 至大正十五年四月 八 日
 法學博士 男爵 × 穗 積 陳 重
 自明治三十九年 六月十二日
 至大正十五年十一月十八日
 文學博士 井 上 哲 次 郎
 自明治三十九年六月十二日
 至昭和 二 年一月十日
 醫學博士 × 大 澤 謙 二
 自大正四年三月二十四日
 至昭和 二 年二月六日
 文學博士 × 芳 賀 矢 一
 自明治三十九年九月十四日
 至昭和 二 年十一月九日
 文學博士 × 南 條 文 雄
 自明治四十四年三月二十八日
 至昭和 三 年二月十七日
 文學博士 × 大 槻 文 彦
 自明治三十九年六月十二日
 至昭和 三 年四月十八日
 法學博士 × 宮 崎 道 三 郎
 自明治四十一年五月二十六日
 至昭和 三 年五月 四 日
 理學博士 × 松 村 任 三

自明治十五年六月
至同 十八年六月

幹事

自明治十八年六月
至同 十九年六月

自明治十八年六月
至同 十九年六月

自明治十九年六月
至同 二十年九月

自明治十九年六月
至同 二十年九月

自明治二十年九月
至同 二十六年十二月

自明治二十年九月
至同 二十九年八月

自明治二十六年十二月
至同 三十一年十二月

自明治三十一年十二月
至同 三十三年四月

自明治三十三年四月
至同 三十八年十二月

×神田孝平

×加藤弘之

×神田孝平

×箕作秋坪

×大鳥圭介

×細川潤次郎

×文學博士 ×重野安釋

×文學博士 ×外山正一

×文學博士 ×菊池大麓

×文學博士 ×田中芳男

第四十一 元東京學士會院會員及客員

一會

員

(△ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者、○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ報帖ヲ交付セラレシ者、×印ハ死亡ノ者)

自明治十二年六月十五日
至同 十四年一月十五日

自明治十二年一月十五日
至同 十四年二月十五日

自明治十二年五月十五日
至同 十四年二月十五日

自明治十二年三月一日
至同 十五年三月二十九日

自明治十四年五月十五日
至同 十五年十月五日

自明治十九年十二月三日
至同 十九年十二月三日

自明治二十年六月十五日
至同 二十二年二月十二日

自明治二十二年一月二十八日
至同 二十二年七月十九日

自明治二十五年十一月七日
至同 二十三年一月十日

×阪谷素

×福澤諭吉

×小幡篤次郎

×内田五觀

×鷺津宣光

×箕作秋坪

△ 子 有禮

×村杉田英俊

第四十二 昭和六年五月十四日第二十一回授賞式 に於ける櫻井院長の演説

本日茲に第二十一回授賞式を舉行するに當りまして、内閣總理大臣閣下、宮内大臣閣下、文部大臣閣下を初めとし、各位の御來臨を辱ふしたることは本院の光榮とする所でありまして、會員一同に代り謹で深厚なる謝意を表します。

本日の受賞者は、恩賜賞工學博士妹澤克惟、帝國學士院賞文學博士宇井伯壽、同理學博士増本量、同醫學博士三宅速の諸君でありまして、今試みに授賞の目的物と相成つたる其の研究の要點を御紹介致しますならば、

妹澤工學博士の「地震波ノ生成傳播其ノ他ニ關スル理論的研究」は、主として、地球の内部に起る縦横二様の地震波と其の表面に起る地震波との生成傳播に關し、從來人の手を下し得ざりし所の複雑にして困難なる諸問題を、數學的に解析して之に明確なる解決を與へたるものであり、

宇井文學博士の「印度哲學研究」は、之を大別すれば、印度六派哲學及其の他の哲學に關するものと、佛教哲學及佛教史料に關するものとに分つことを得るのでありますが、而も其の内容極めて廣汎なるにも拘らず、全般に亘つて精細なる批判的研究を爲したるものであり、

増本工學博士の「強磁性元素及其ノ合金の物理冶金學的研究」は、鐵、ニッケル、コバルトの三強磁性元素と其の合金の變態點、電氣傳導、熱傳導或は磁氣の測定を爲し、以て物理冶金學上有益なる資料を提供したるものであり、

三宅醫學博士の「日本ニ於ケル膽石症」の研究は、數百の自家實驗例を根據として精細なる研究を遂げたる結果、本邦に於ける膽石症は外國に於ける夫れと異なる點尠なからず、殊に膽石の成分に於て大なる相違あることを發見したるものであります。

右の如き有益なる研究に對して賞を授け、斯くして勤勉篤學なる各研究者の功績を表彰することは、本院の目的に最よく副ふ所でありまして、之に依り學術の發達を圖り教化を裨補する所大なるものあるべきは信じて疑はざる所であります。而して、本日の授賞は獨り受賞者諸君の名譽であるのみならず、實に我學界の一大慶事でありまして、茲に滿腔の祝意を表します。

さて、此の機會に於きまして、特に一言致したいと思ふことがありますので尙暫く御清聴を煩はします。

帝國學士院規程第一條に「帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス」と言ふ明文がありまして、學術の發達を圖ることが其の目的の一であり、而して學術の發達を圖るには之が研究を促進獎勵するの必要あるは當然のことでありますに拘らず、此の當然行ふべき事業に對する政府支出金は全然ないのであります。而して之に對する本院の要求は、不幸にして毎年削除せらるるの運命を有して居るのでありまして、本院が授賞を行ひ又或程度の研究費補助を爲し、以て學術の發達を圖ることを得ますものは、全く皇室の厚き御保護と民間篤志家諸氏の援助とに依る所であります。

又、帝國學士院と密接の關係を有する學術研究會議の官制第一條に「學術研究會議ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ科學及其ノ應用ニ關シ内外ニ於ケル研究ノ聯絡及統一ヲ圖リ其ノ研究ヲ促進獎勵スルヲ以テ目的トス」とありまして、科學及其の應用に關する研究の促進獎勵が其の目的の一と相成つて居りますに拘らず、此の目的の達成に必要な經費は全然ないのでありまして、之に對する當然の要求も亦不幸にして毎年削除せらるるの運命を有して居るのであります。

更に帝國大學の場合は如何にと申しますに、明治十九年に公布せられた帝國大學令は、大正七年の大學令と共に、改正せられて舊帝國大學令の第一條は新大學令の第一條に包含せらるるに至りましたが、其の新大學令第一條に「大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ」云々とあるに徴して明であります如く、帝國大學は一面、國家の研究機關であるのであります。然るに、實際に於ては、研究費缺乏の爲學術に熱心であり忠實であり而も研究に堪能なる多數の教授助教授が、殆ど何等爲すこと能はざるの状態でありまして、堂々たる大學令第一條の一半が殆ど全く空文に屬し、而して大學院なるものが殆ど全く空名に過ぎざることが帝國大學の現状である様に考へられます。

他の學術機關も亦恐くは大同小異の状態にあるのであるまいかと推測されるのであります。兎に角、帝國大學、帝國學士院、學術研究會議の如き國家須要の學術機關に名實相伴はざるものがあり、其の制度と實際との間に大なる矛盾があるのであります。

す。而も若し此の矛盾が單に現論上不都合であると言ふことに止るものでありましたならば、必ずしも喧しく申し立つるにも及ばざる所でありますが、此の場合は左様ではなくして、實に學界の生命に關し國家の興廢に關する大問題であるのであります。

即ち、右の如き矛盾の存在を認むることは學術の發達を圖る所以ではなくして寧ろ學術研究熱に燃えんとする我學界近來の機運に冷水を注ぐに類するものであります。而して歐米先進國が戦後特に大なる犠牲と努力とを學術研究の促進に拂ひつゝあるに反し、獨り我國が之を怠り、爲に國防上經濟上容易ならざる後れを取る様なことがありましては、夫れこそ國家の一大事でありまして深憂に堪へざる所であります。何卒、總理大臣文部大臣兩閣下に於かせられましては、前陳の次第を慎重に御考慮下されまして、適當なる處置を御取りに相成様懇願の至に堪へざる所であります。

尙、去る四月三十日、本職が帝國學士院長の資格を以て宮中に召され、「學術研究ノ振興」に就て御進講申上ぐるの光榮を荷ひましたる機會に於て、從來本院に賜はりましたる數々の有難き御沙汰に對し奉り親しく御禮を申上げましたると共に、我學界の現狀に就き具に而して卒直に御話申上げましたることを茲に御報告致します。

第四十三 本院會館工事概要

一 規 模

敷地坪數 一、〇〇〇坪
本館建坪 二〇二坪（附屬門衛所 一一坪）

地下室及屋上階共に五層にして各階坪數左の如し

地下室	七三坪	一階及二階	各二〇二坪
三階	一三四坪	屋上階	五四坪二五

合 計 六六五坪二五

本館延長、東西と南北と各一八間

本館高さ、中央部 五六尺、兩翼及背部 四九尺

一 構 造

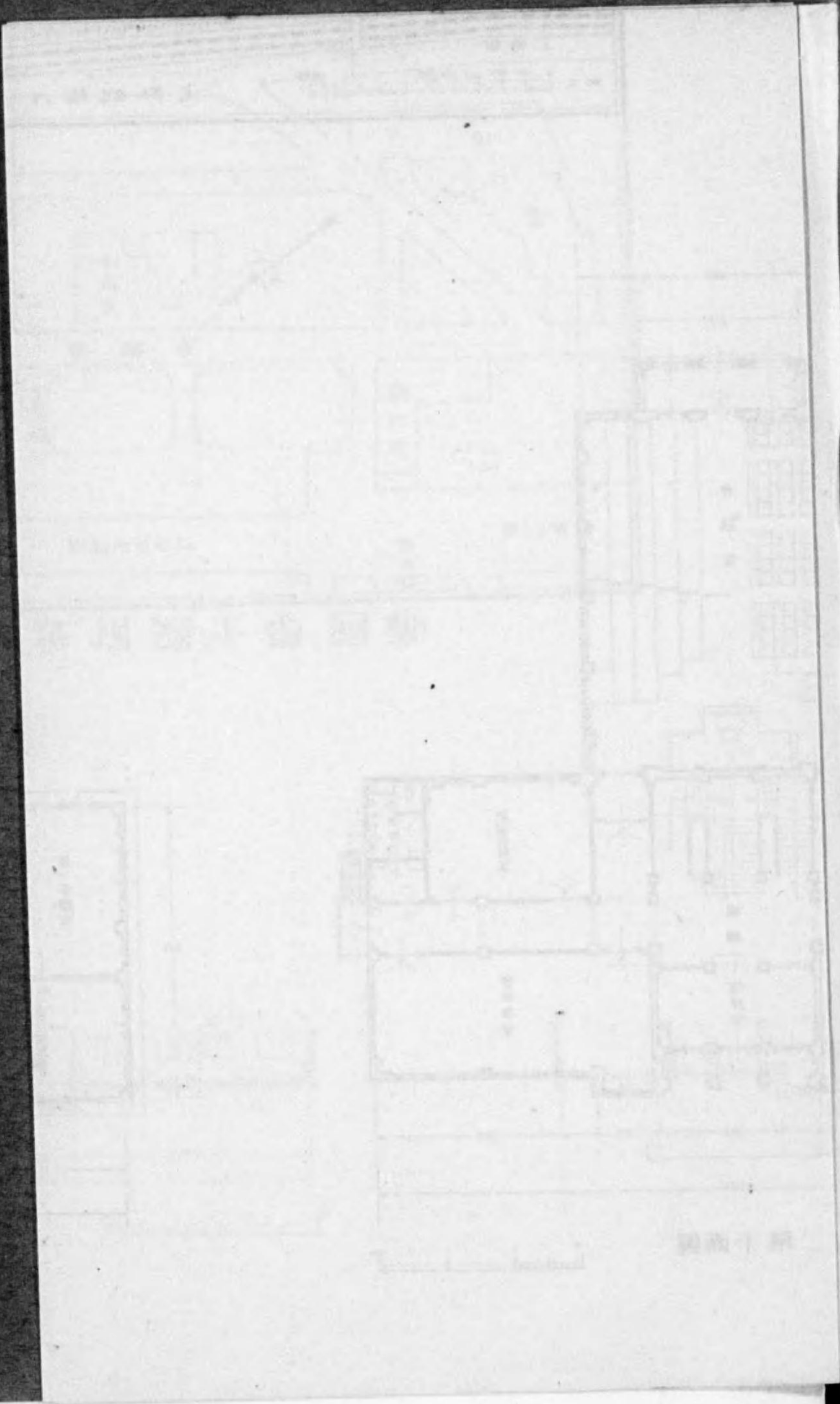
本館構造は鐵筋コンクリート造にして、屋根はコンクリートスラブ上に防水層を施し砂利敷とし、外壁は腰廻り萬成産花崗石、上部目の出石貼付、及モルタル塗仕上とし、附屬家は鐵筋コンクリート、ブロック造、外部モルタル塗仕上とす

一 工事設計及施工

營繕管財局

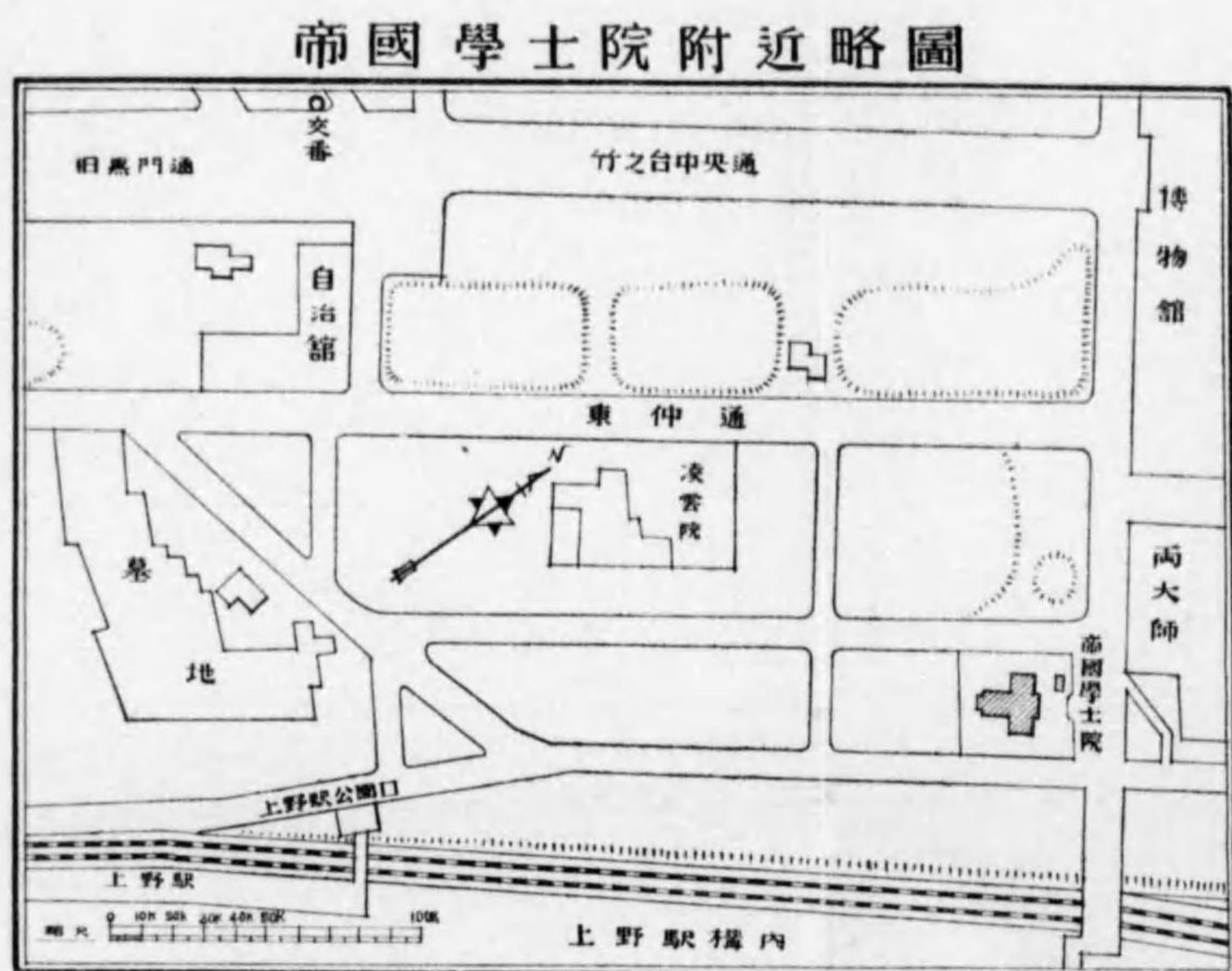
本工事は當初文部省建築課に於て設計起工し、大正十四年四月營繕管財局へ移管せられ、多少の設計變更をなせり

一 工 事 大正十三年十二月起工、大正十五年九月竣工

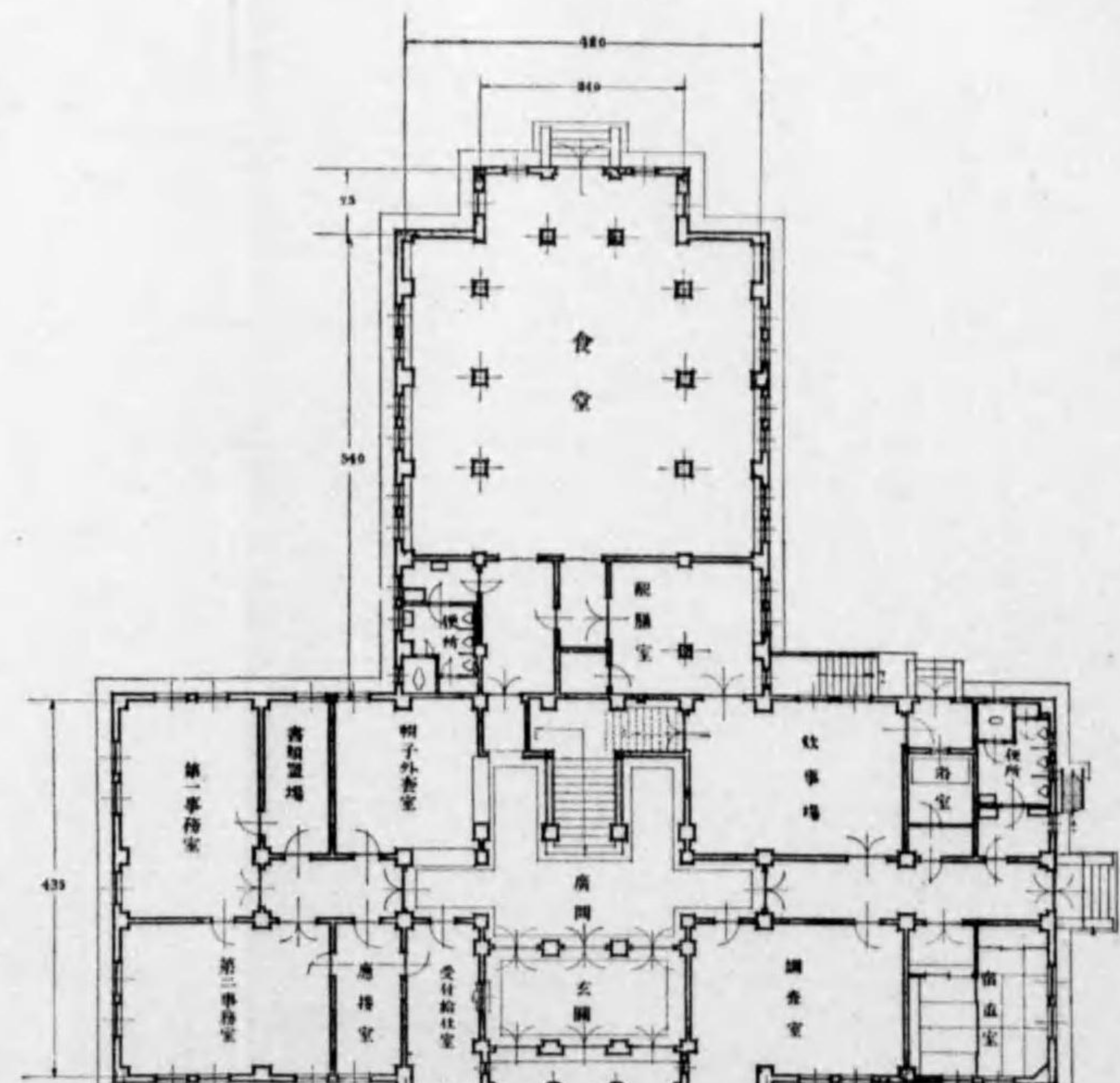
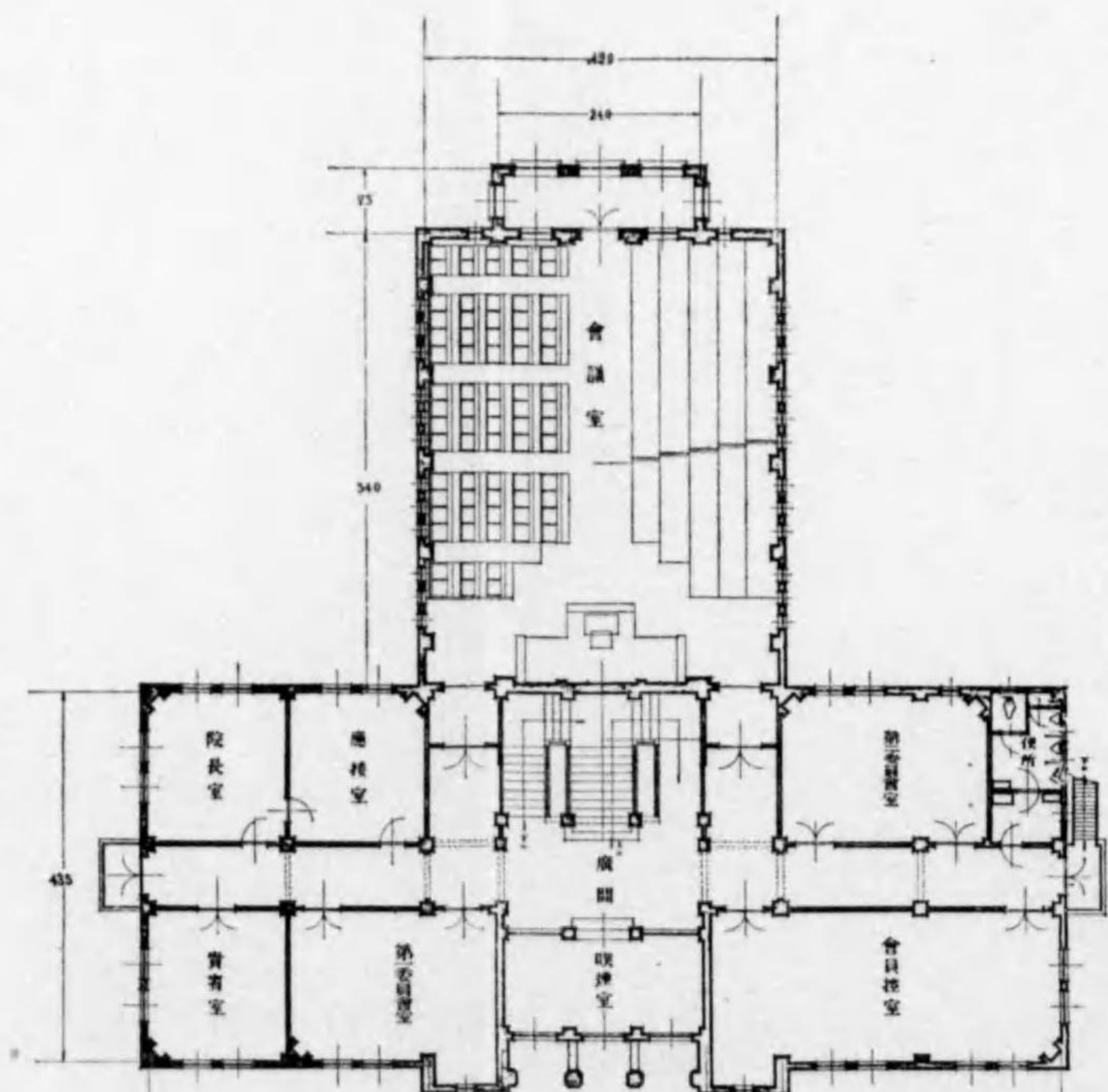
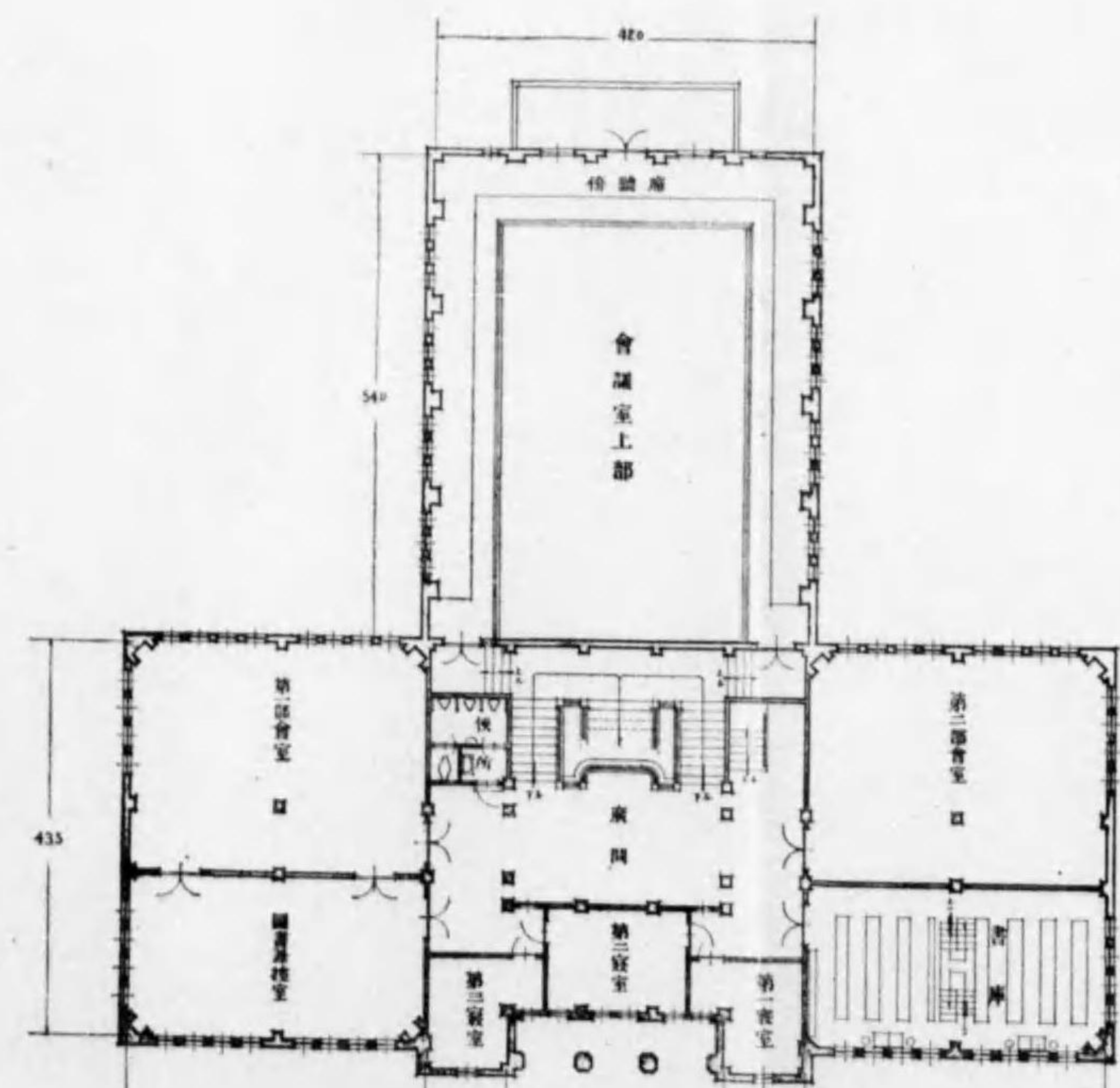




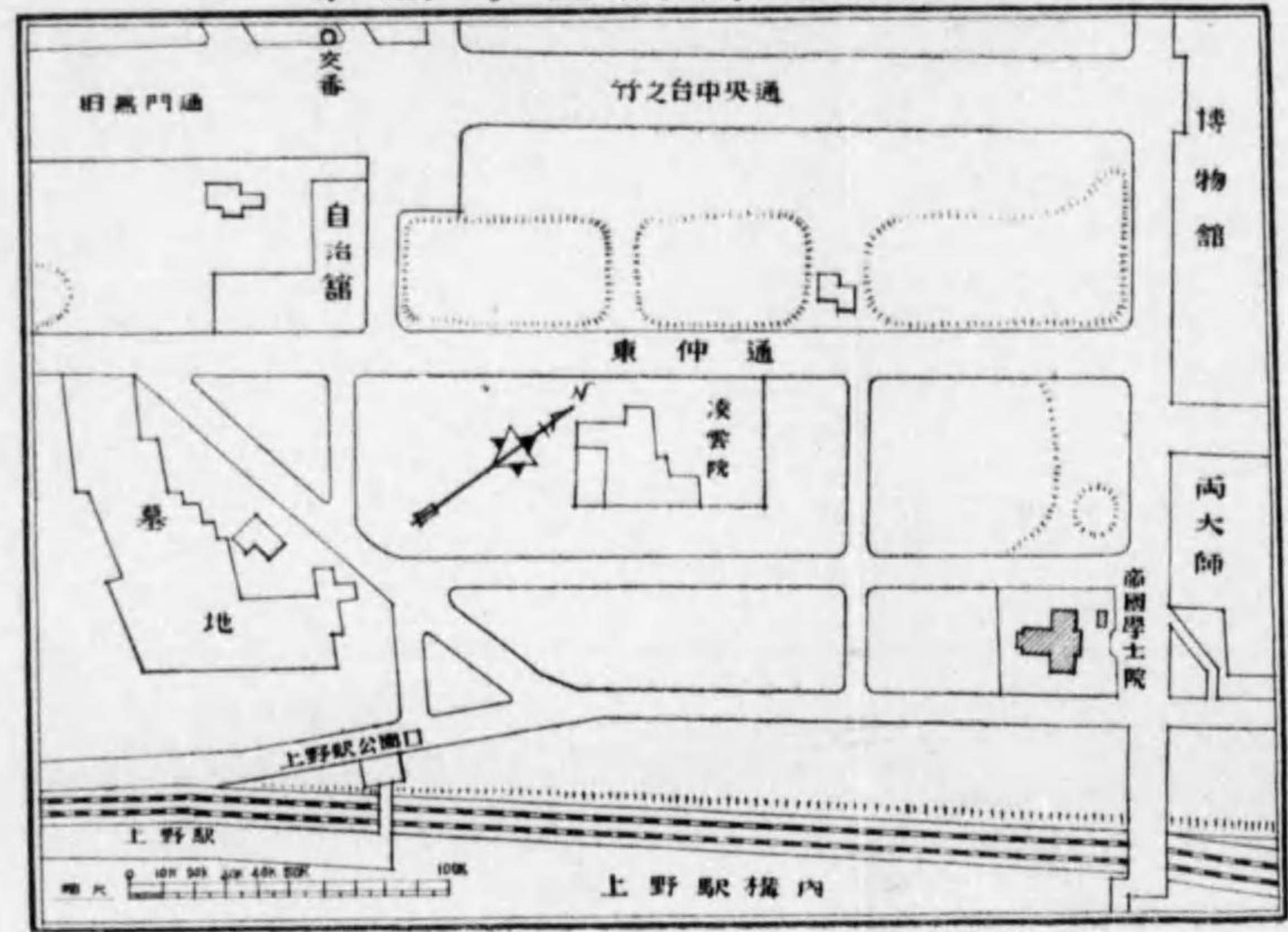
帝國學士院配置圖



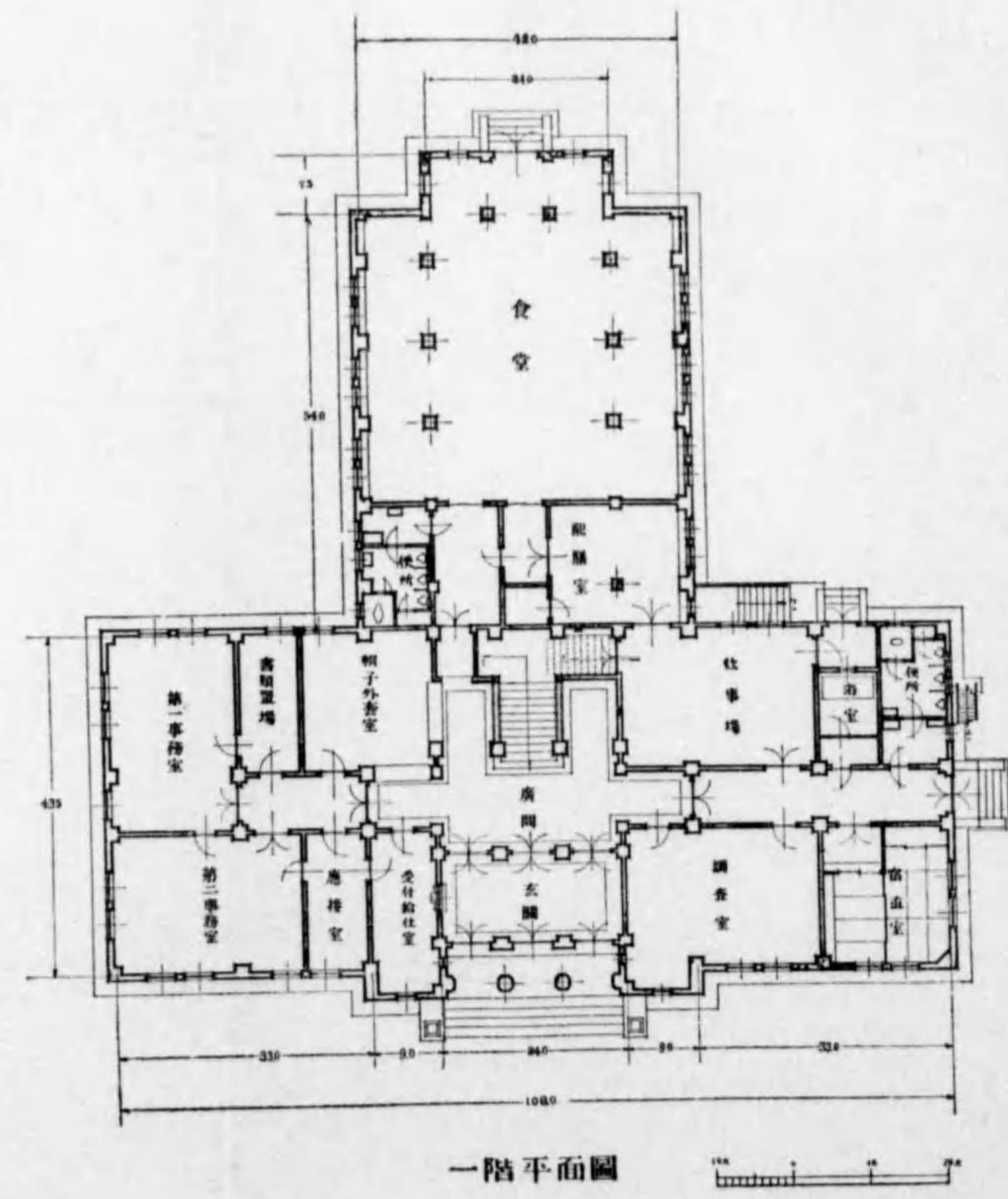
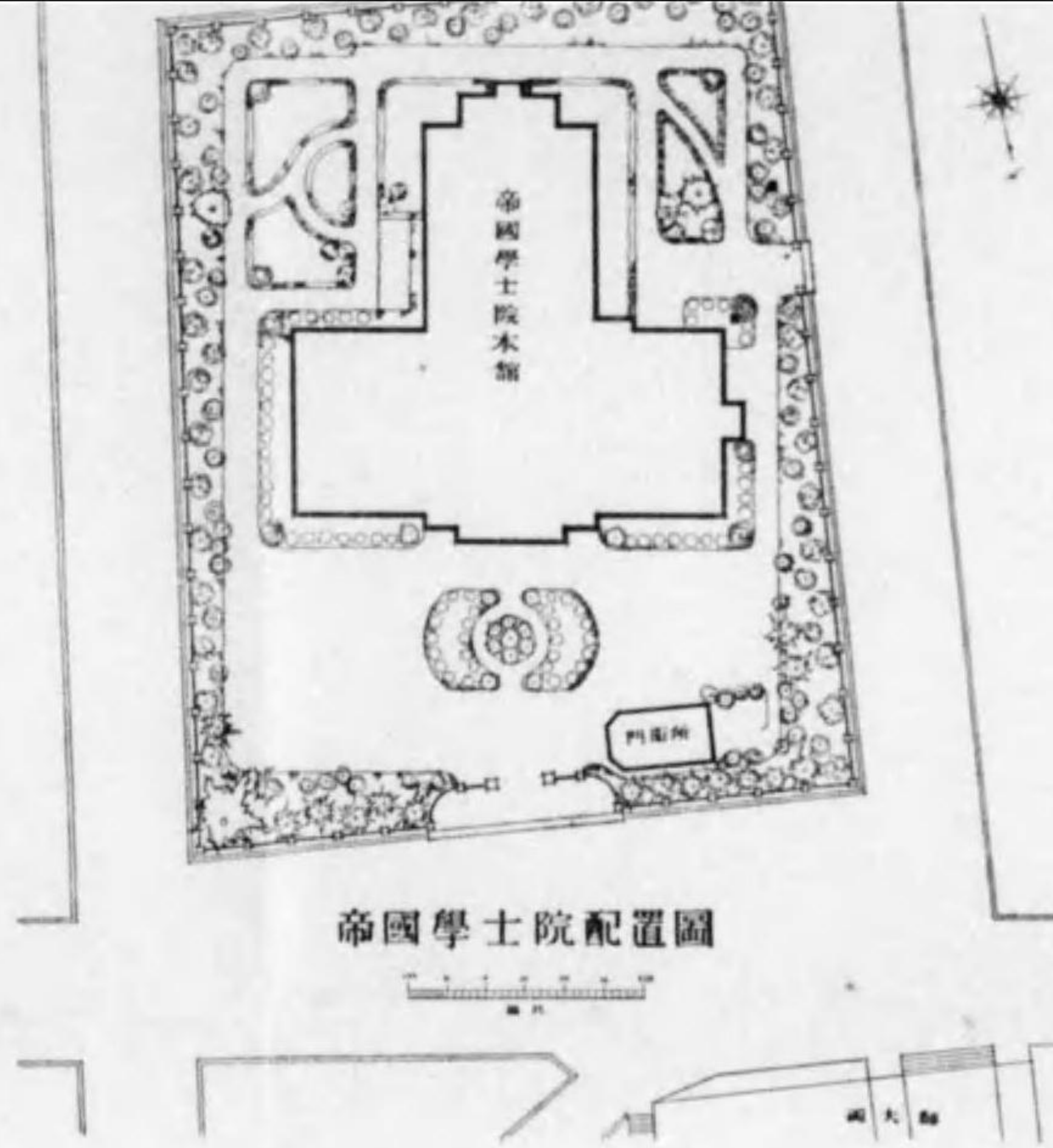
帝國學士院附近略圖



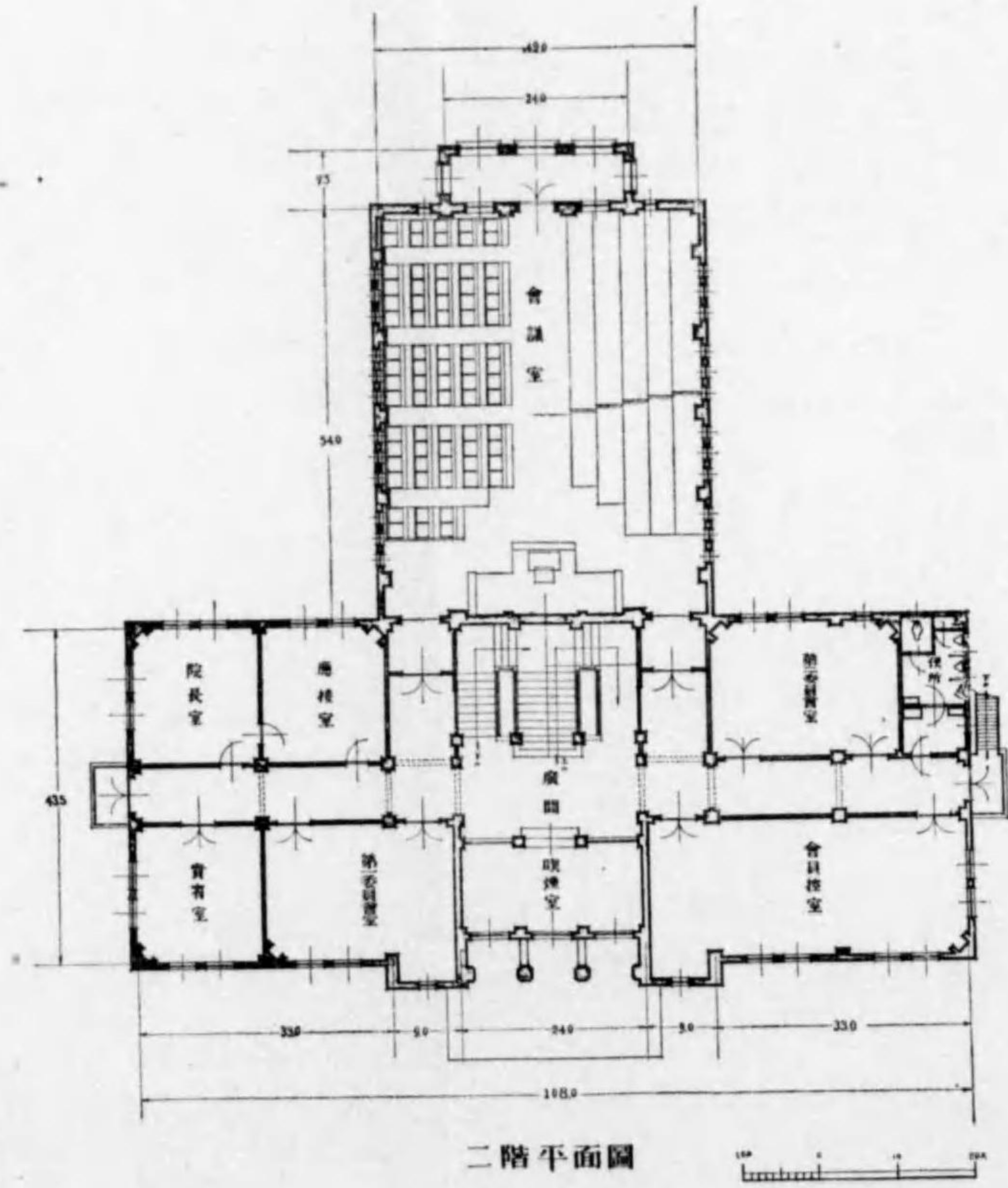
帝國學士院附近略圖



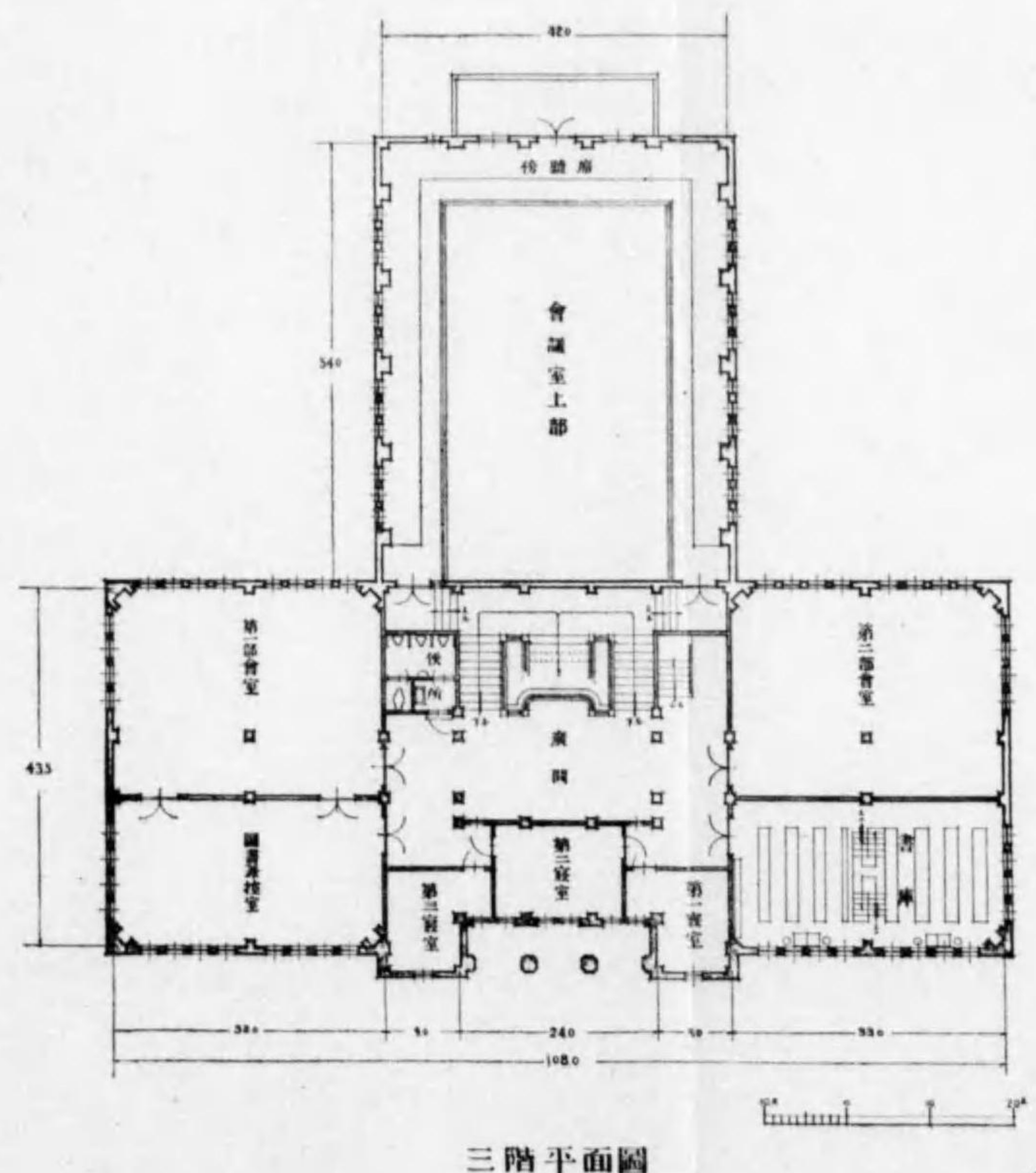
帝國學士院配置圖



一階平面圖



二階平面圖



三階平面圖



昭和六年七月

東京市下谷區上野公園地

帝國學士院

電話
下谷 (83) 四四〇番
番(專用)

終

